東京の祝祭と博覧会

変化する都市〜政治・技術・祝祭〜

2008年6月11日

木下直之

「ｷ:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。」

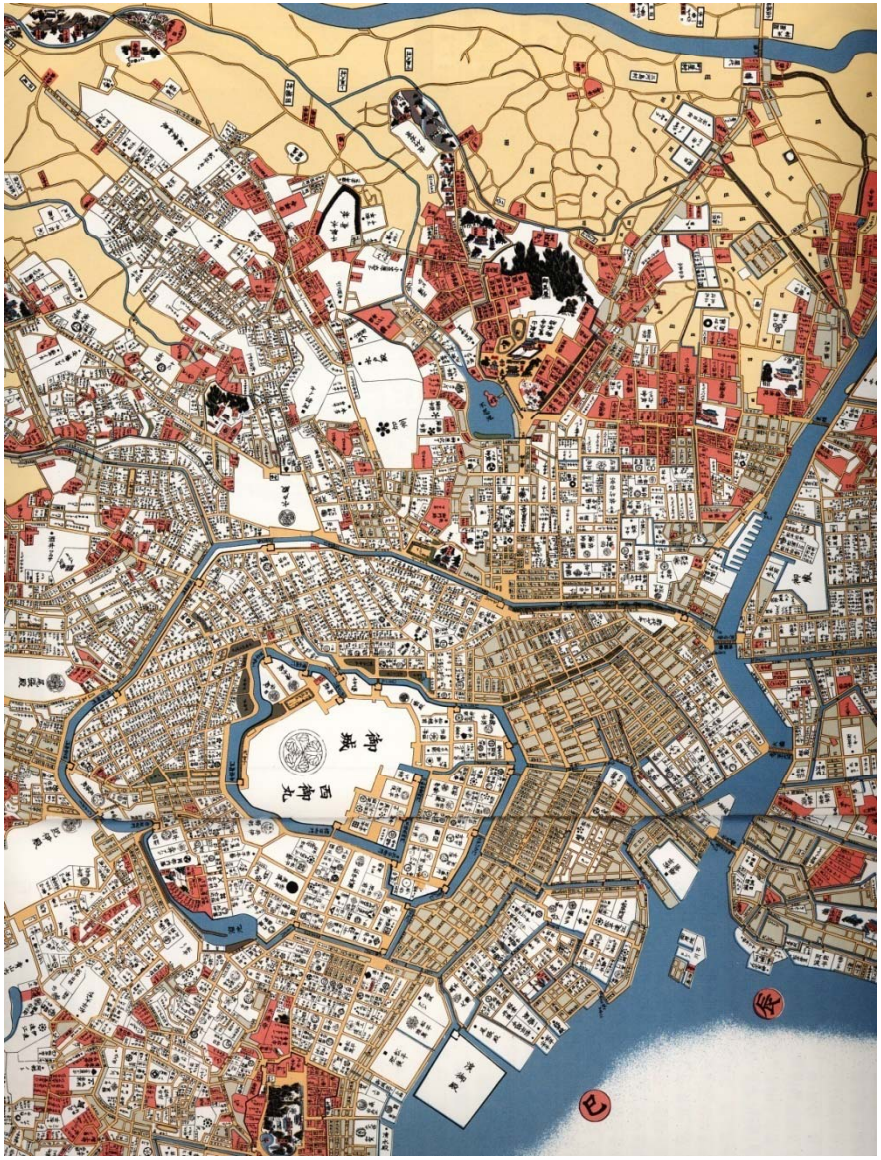
本日のメニュー

- 「江戸の祭礼と開帳」補遺
- 　1）武家地／社寺地／町人地（町地）の一元化
- 　　交通の自由 → 木戸の廃止
- 　　→ 城門の撤去 → 筋違御門と万世橋、常盤橋御門と常盤橋
- 　2）祭礼における仮装 ←→ 日常生活における服装

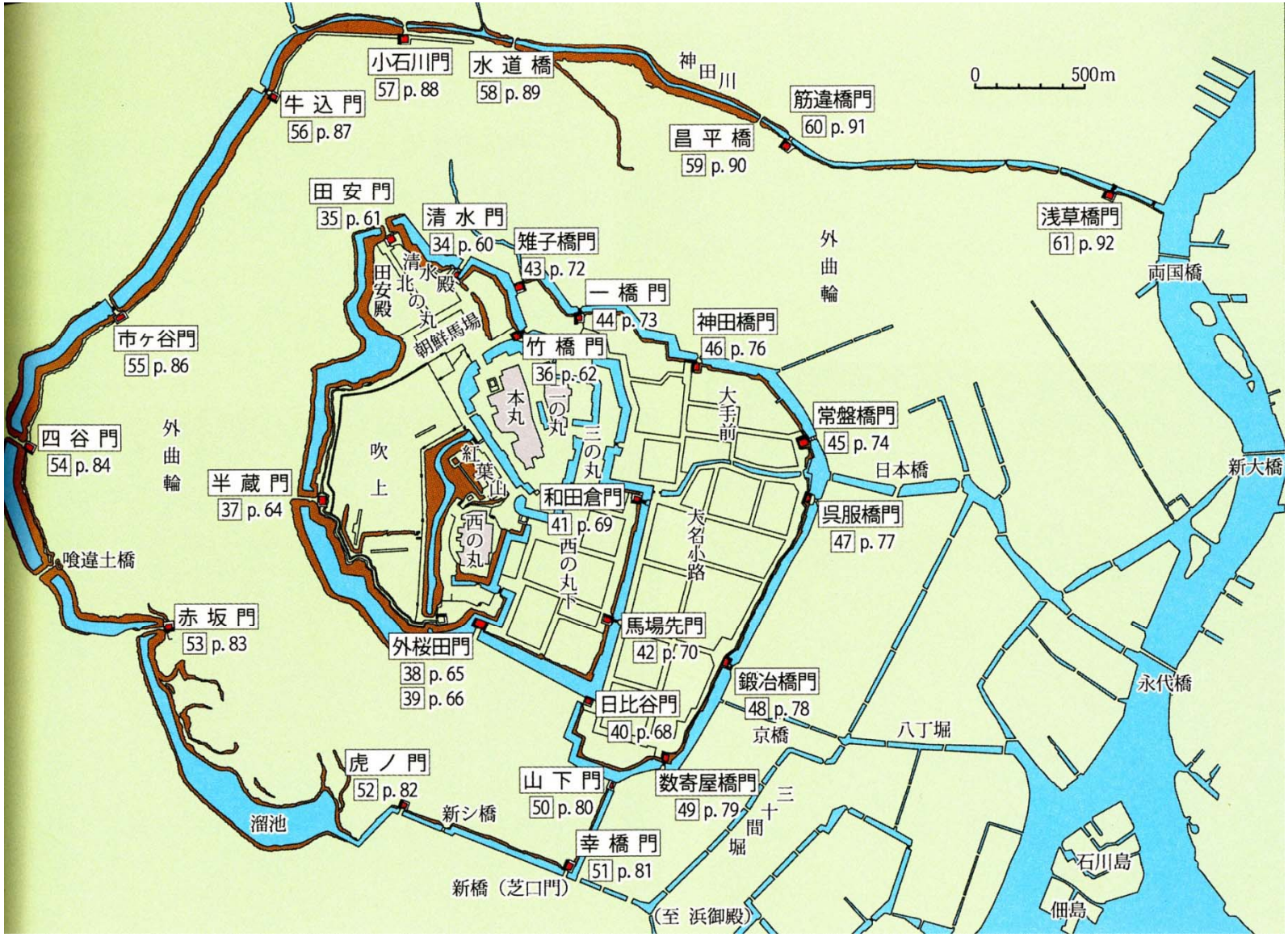
- 開帳
- 　1）社寺の宝物→文化財
- 　2）開帳場→博物館

- 博覧会
- 　1）文明開化の装置

- 国家の祝祭



‡ 資料提供：人文社

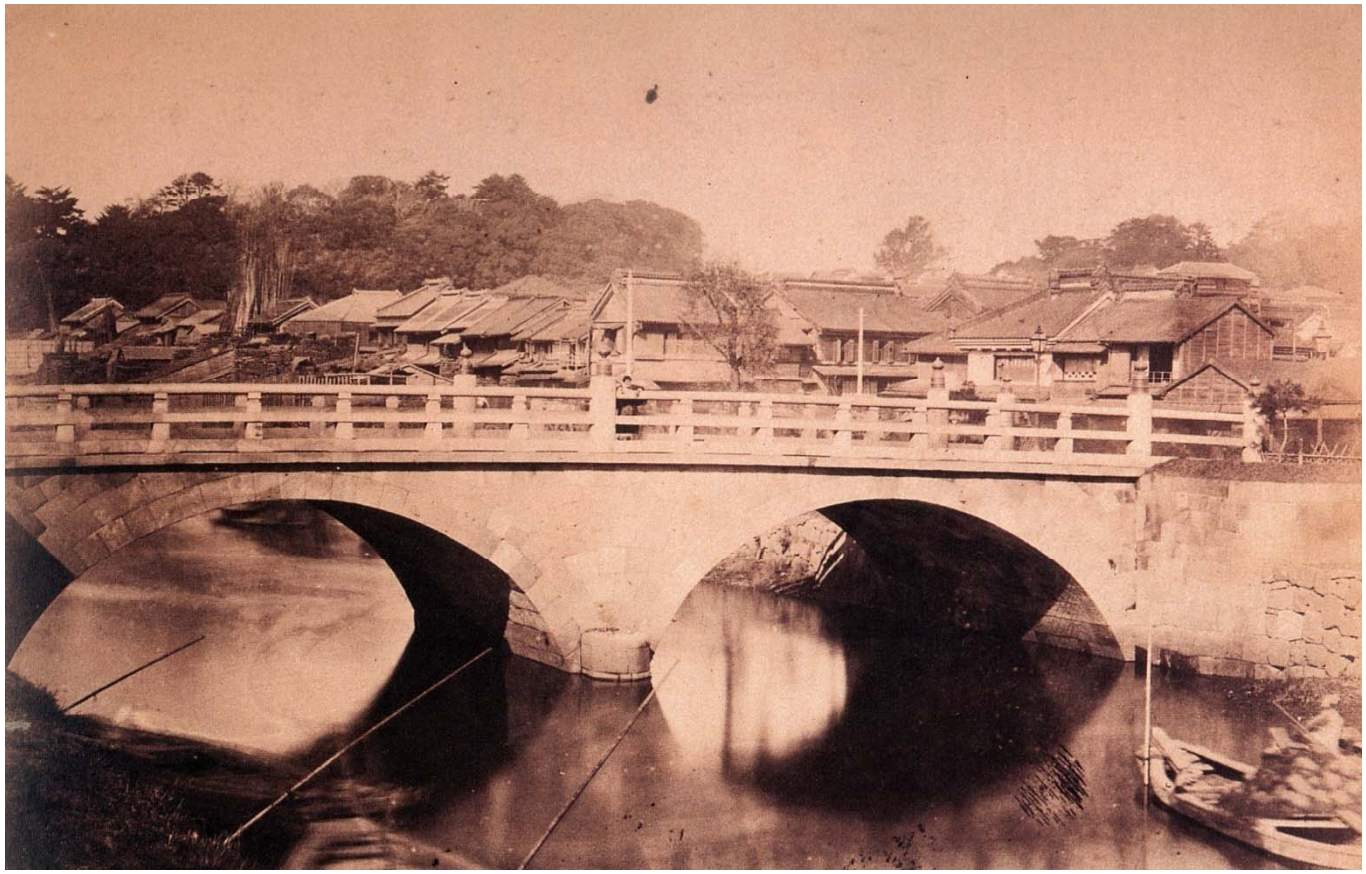


‡ 平井聖監修『地図と写真で見る幕末明治の江戸城』（発行：学習研究社、地図作製：碧水社、P.58）

筋違橋御門

‡ 社団法人霞会館編『鹿鳴館秘蔵写真帖』（平凡社、P.50、図38）

万世橋



‡ 石黒敬章蔵、石黒敬章編『明治・大正・昭和　東京写真大集成』（新潮社、P.153、図I 20-20）

万世橋（よろずよばし）
明治6年（1873）

万世橋

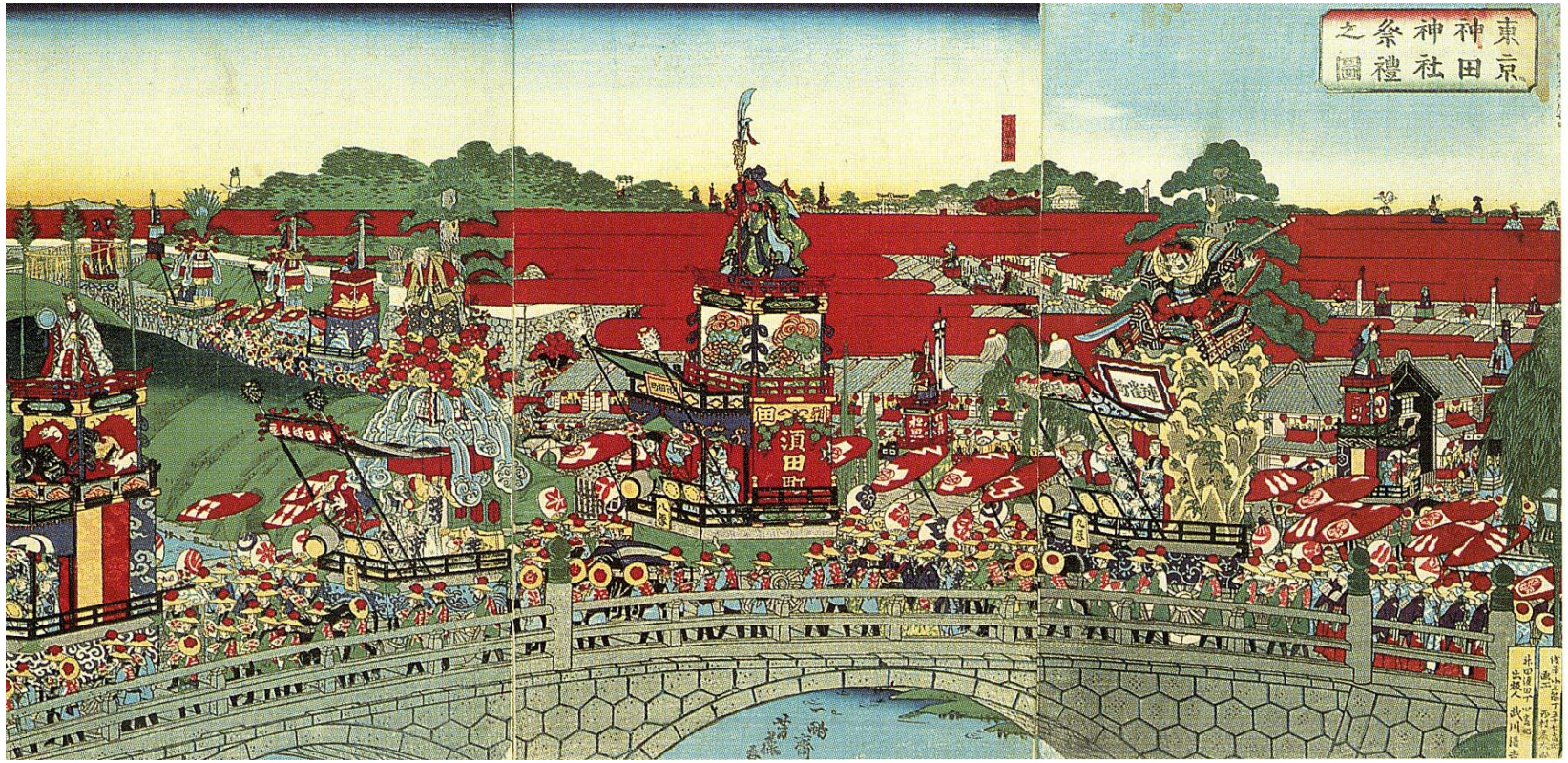
　須田町より下谷への通路にて、神田川に架（わた）す。明治六年、不用を転じて有益となし、旧見附の石垣を毀ちて筋違橋と昌平橋を廃し、その中央（まんなか）に幅六間、長さ十五間の石橋を架せらる。・・・府尹（ふいん＝府の長官＝東京府知事）不朽を祝して、万世橋（よろずよばし）と唱（なづ）けたり。

岡部啓五郎『東京名勝図会』、明治10年（1877）

「東京神田万世橋賑之図」

「東京神田神社祭礼之図」

明治9年（1876）



常盤橋御門

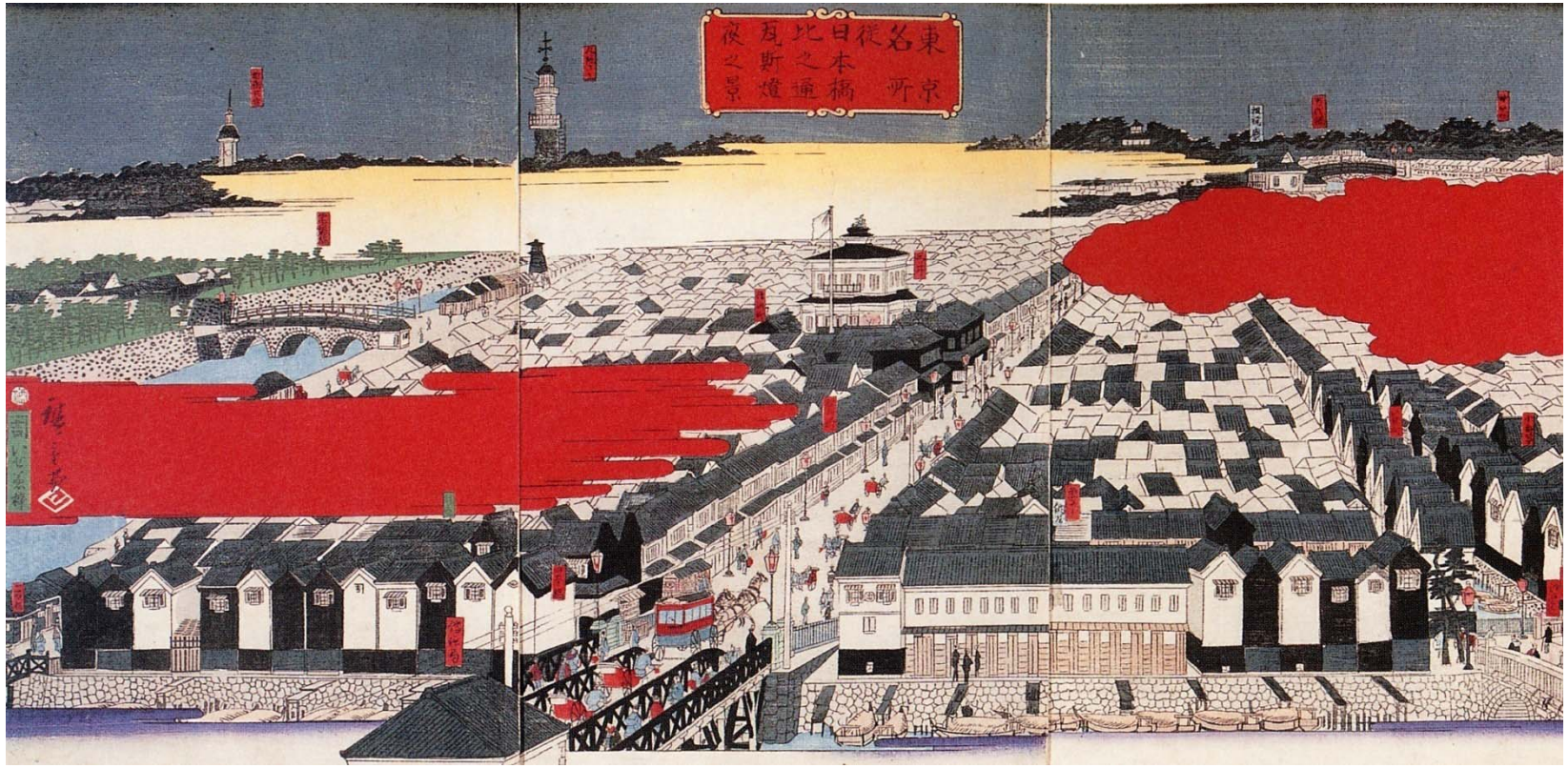
‡ 玉井哲雄編『よみがえる明治の東京』（角川書店、P.99、図13）

常盤橋

‡ 玉井哲雄編『よみがえる明治の東京』（角川書店、P.53、図4）

4018

「東京名所従日本橋北之通瓦斯燈夜之景」



祭礼における仮装

↑

↓

日常生活の衣服

羽川藤永「朝鮮人来朝図」
神戸市立博物館蔵
実は朝鮮通信使に仮装した祭礼行列

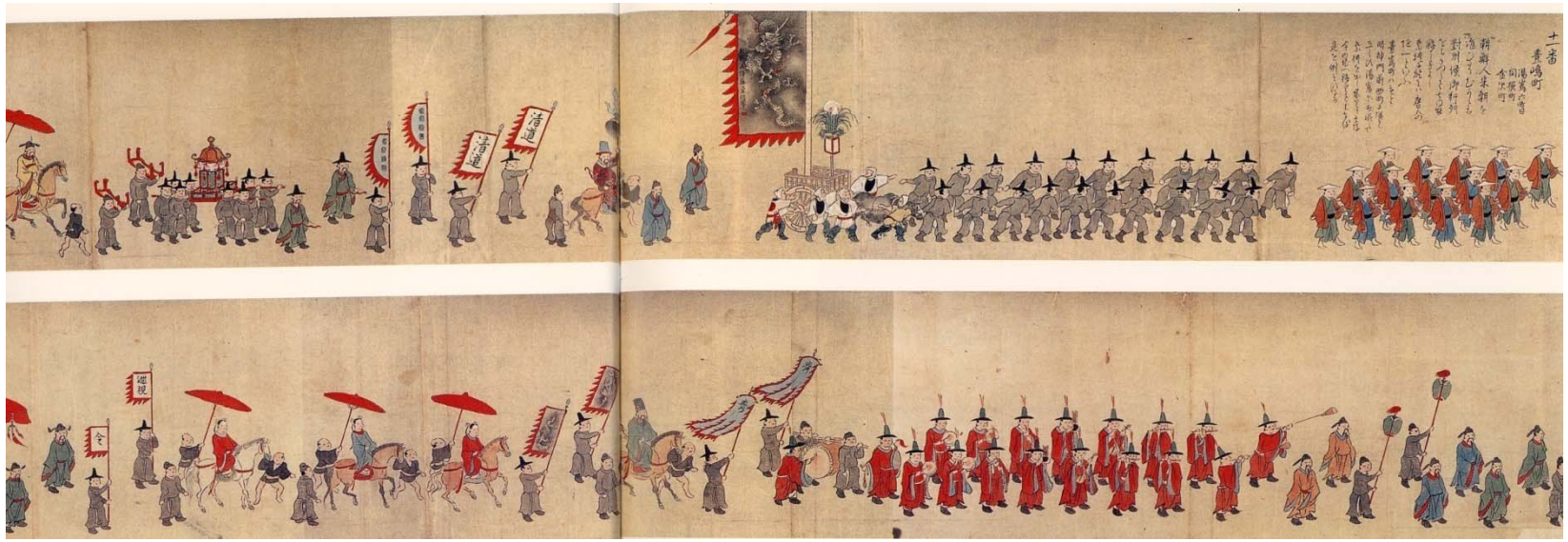
著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた

図表は削除されました。

「神田明神祭礼図巻」
東京国立博物館蔵

大黒天

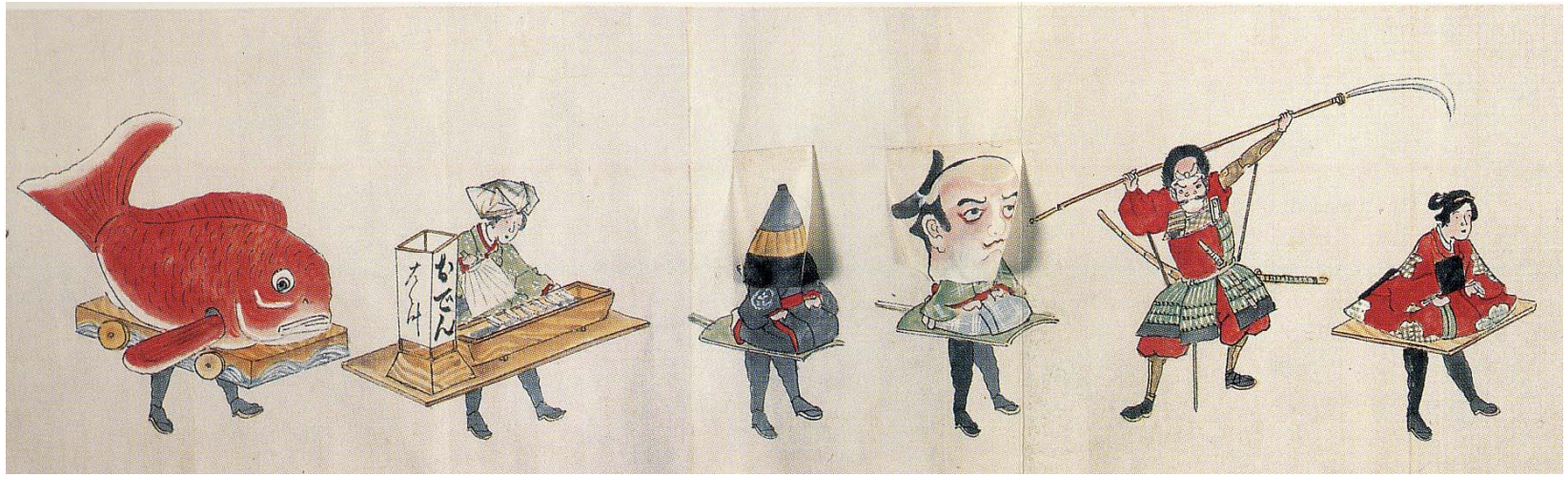
手徳神
手徳神



「神田明神御祭礼御用御雇祭絵巻」

文政8年（1825）

国立国会図書館蔵


おでん

大江山
鬼退治
源
大江山
鬼退治
藤原
大江山
鬼退治
渡辺
大江山
鬼退治
卜部
大江山
鬼退治
坂田金
練物
復興
文化資源学会
神田祭

開帳

車にご注意
車にご注意

成田山開基一〇七〇年祭
記念大開帳奉修
平成二十年 四月二十八日から
五月二十八日まで
大本山成田山新勝寺

『江戸名所図会』
回向院

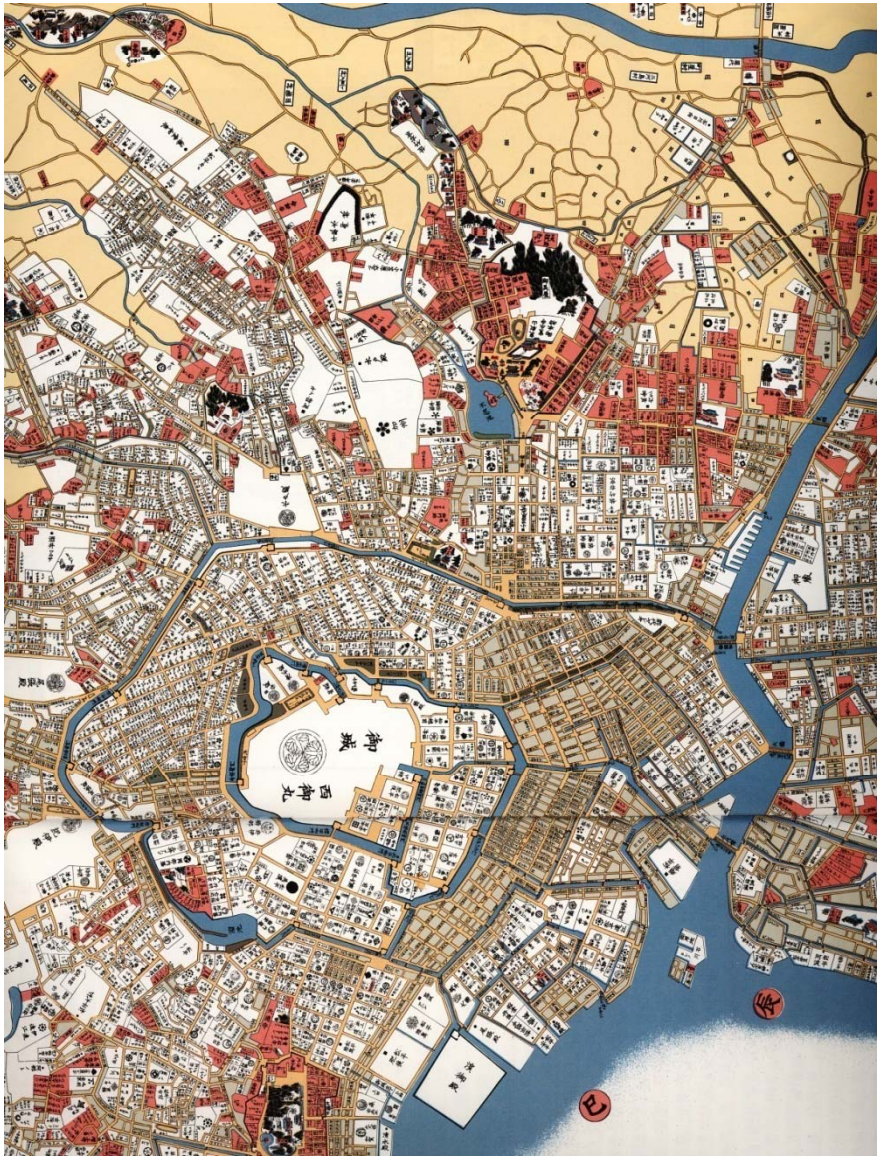
国向院
梶田十ゞ

海上潮光群生追福之塔
維時文政十年丁亥六月 創建
安政三年丙辰六月 再建

なぜ回向院は開帳のメッカとなったのか？

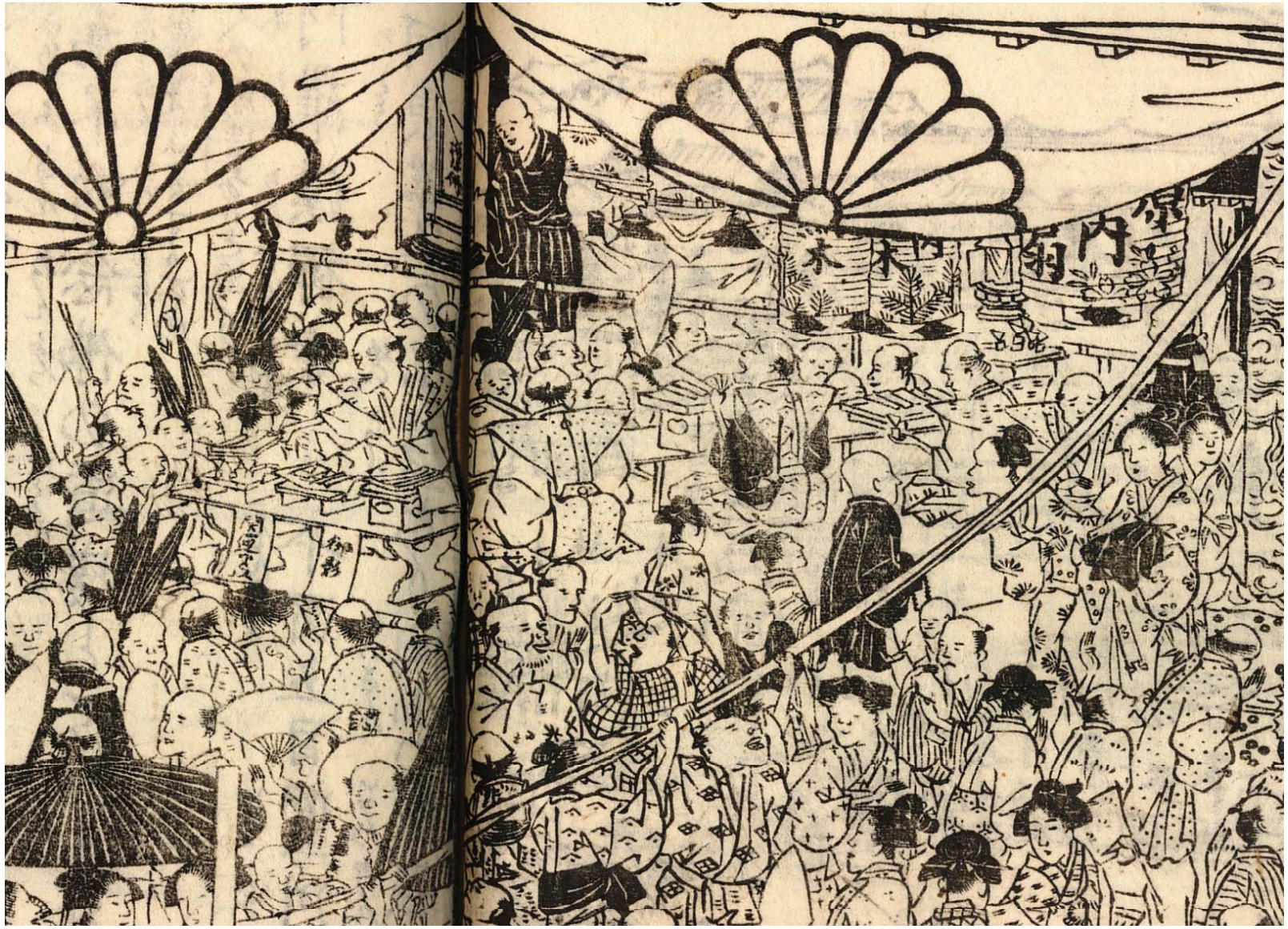
明暦3年（1657）　明暦大火
安政2年（1855）　安政大地震

大正12年（1923）関東大震災
昭和20年（1945）東京大空襲



‡ 資料提供：人文社

諸國の霊佛霊
神等結縁のなら
大江戸に出て
啓合乾せんと
歎るもの多くは
尚院に於て
弥せしむ法方
より使りとき
比なる故
殊に
未請
多し
奉納所


菊内

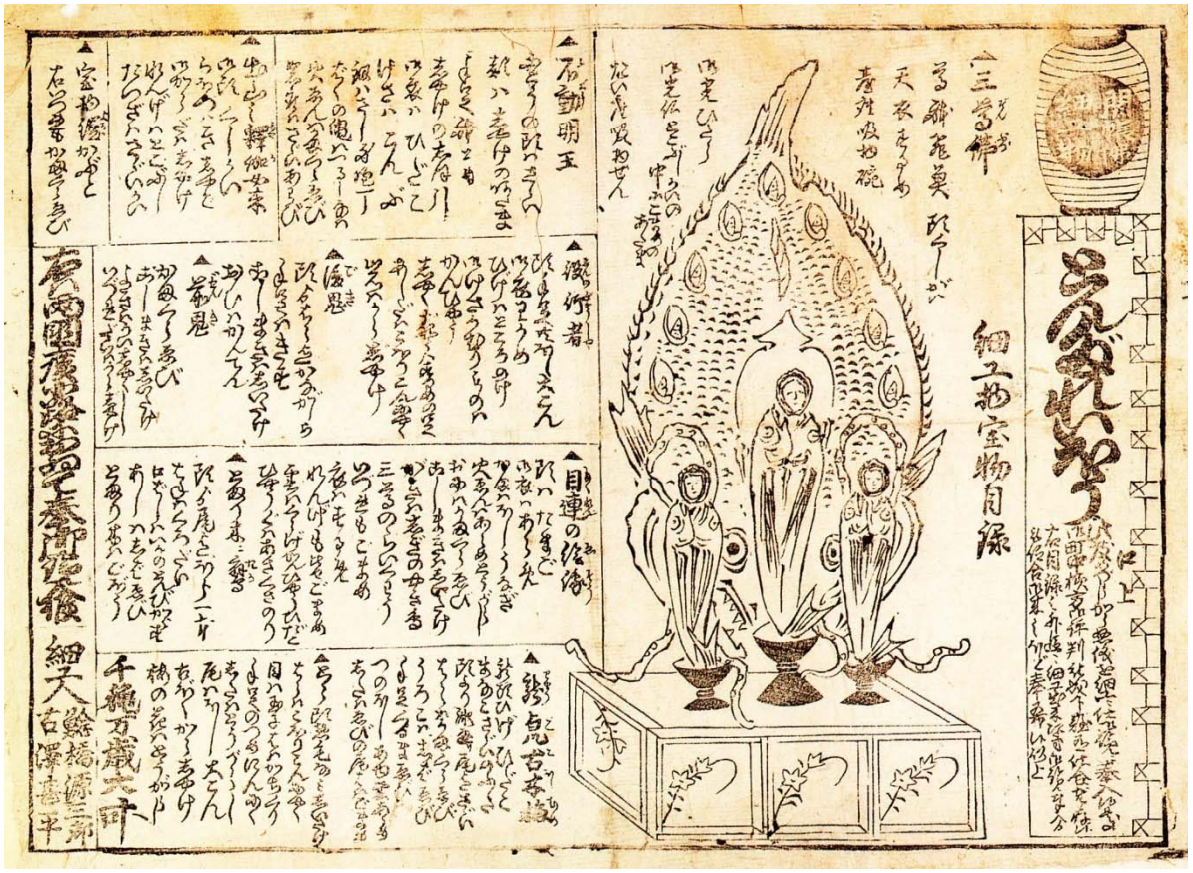
清涼寺開帳

高力猿猴庵『嵯峨霊仏開帳志』、文政2年（1819）
於西蓮寺、名古屋

‡ 東日本旅客鉄道株式会社、株式会社劇団東俳

とんだれいほう（飛んだ霊宝）

1777年（安永6）、両国広小路



法隆寺出開帳
『御宝物図絵』
於回向院、1842（天保13）

‡『生まれかわった法隆寺宝物館』（東京国立博物館、P.301、上図）

東京国立博物館法隆寺宝物館

法隆寺宝物は、
両国の回向院から上野公園の博物館へと、
その居場所をなぜ変えたか

↓

上野の改造

↓

東叡山寛永寺→上野公園

宗教→博覧会→文化

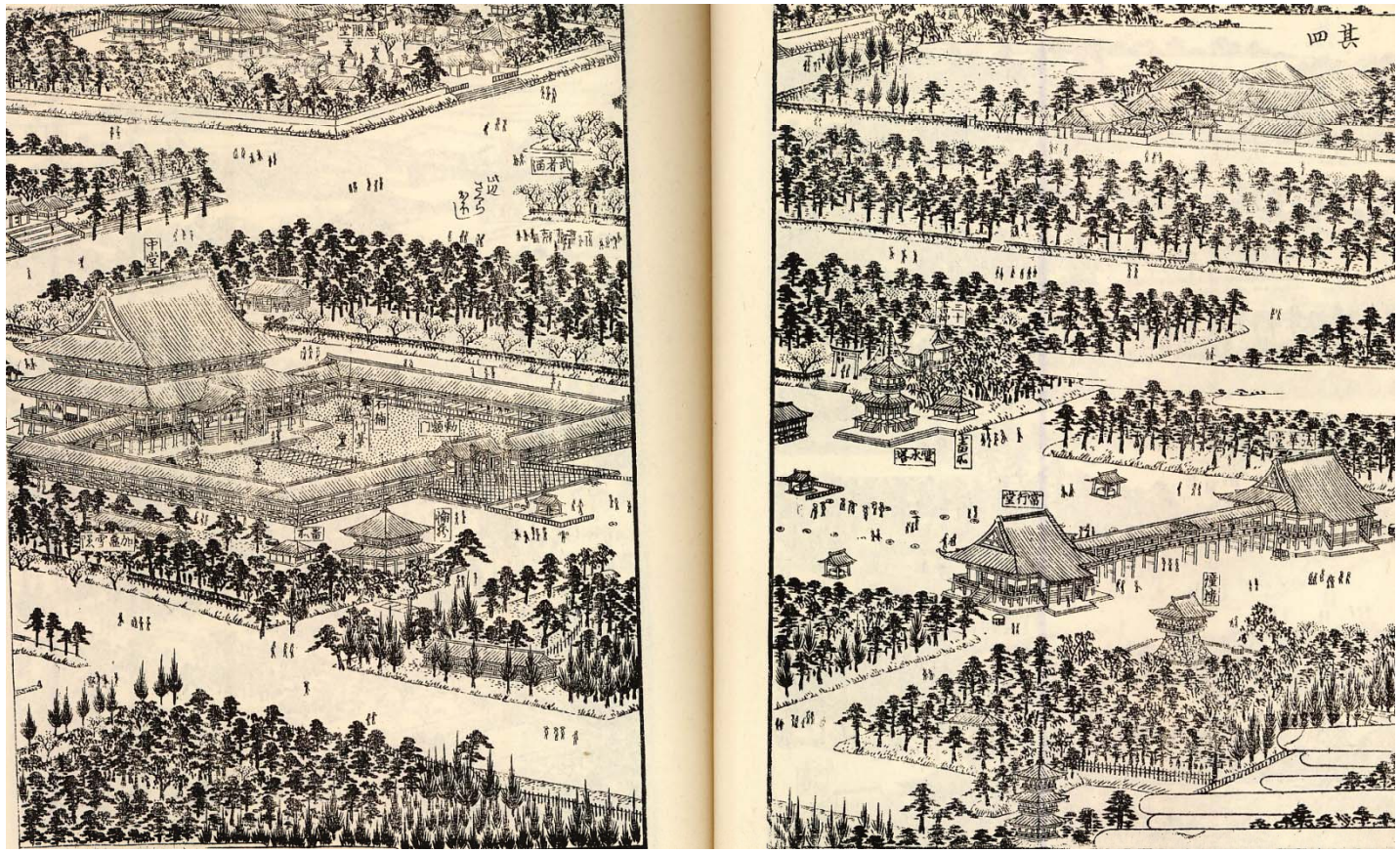
博覧会

東京国立博物館

二代広重「東都上野花見」

安政6年（1859）

『江戸名所図会』

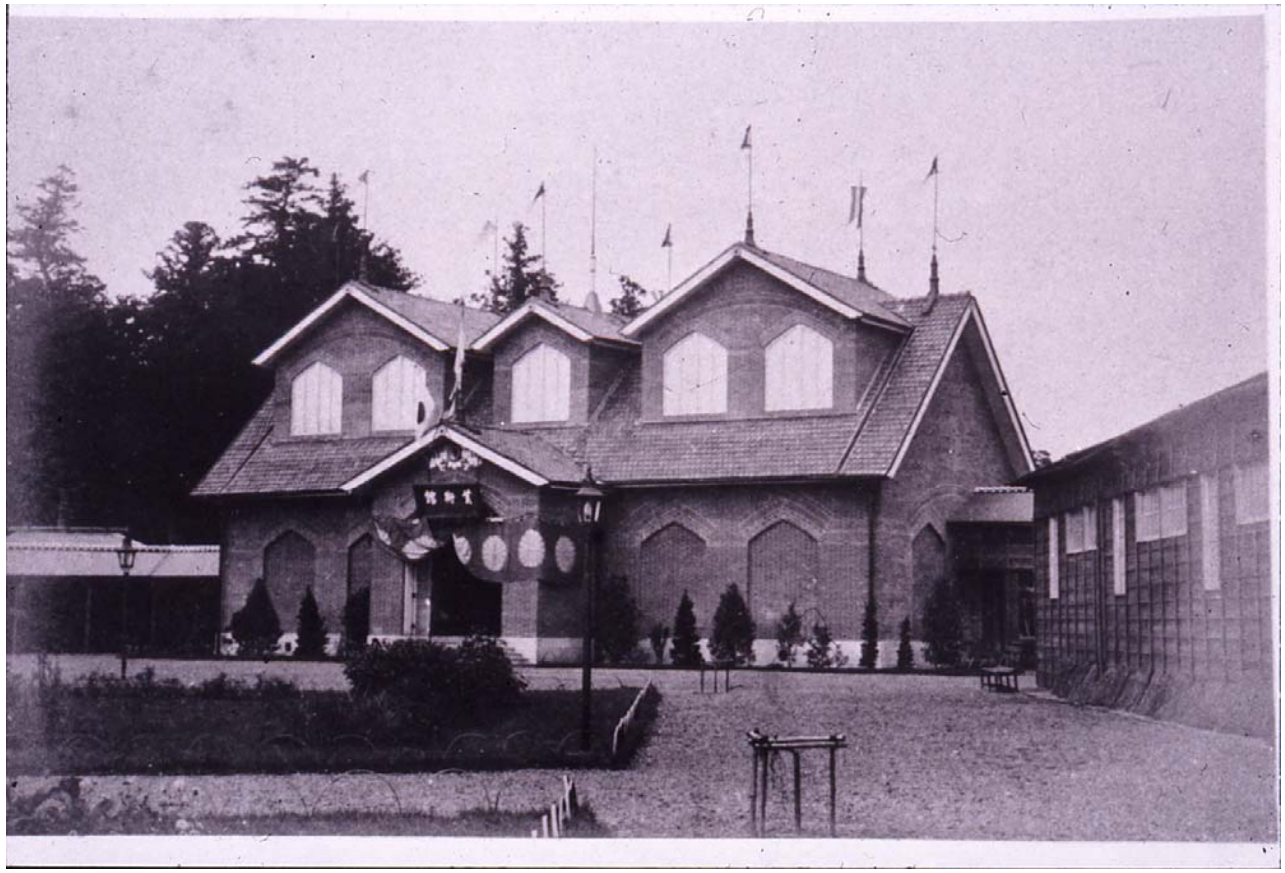


『江戸名所図会』

上野戦争で寛永寺焼失

慶応4年（1868）

第1回内国勧業博覧会美術館
明治10年（1877）



第2回内国勧業博覧会美術館 → 博物館
明治15年（1882）

寛永寺本坊の門を転用

関東大震災で倒壊
大正12年（1923）

本館復興
昭和13年（1938）

東京国立博物館のはじまり

・　東京国立博物館の創始は、明治四年文部省に博物局が置かれ、翌五年三月文部省博物館の名のもとに東京湯島の聖堂大成殿において博覧会を開いた時にさかのぼることができる。

（『東京国立博物館百年史』東京国立博物館、1973）

・　当館は、明治5年3月10日、文部省博物局の博物館として湯島聖堂大成殿において開館しました。

（『目でみる120年』東京国立博物館、1992）

昇斎一景「元昌平坂聖堂ニ於テ博覧会図」
明治5年（1872）

大成殿

博覧会開催の趣旨

- 博物館は世界中の物産、古物、珍物を集めて人に示し、見聞を博くする為めに設けるものなり。
- 前条の如く各国に博物館を設けて古来世界中の物品を集むと雖ども、諸邦の技芸工作、日に闢（ひら）け、諸般の発明随て出、随て新なり。之が為め昔年は希有の珍器と貴重せしものも、方今に至ては陳腐に属し、昨日の利器は今日の長物となること、間々少なからず。故に西洋の大都会には、数年毎に産物の大会を設け、世界中に布告して各々其国の名産、便利の器械、古物奇品を集め、万国の人に示すことあり。之を博覧会と称す。・・・

  ・・・博覧会は元相教へ相学ぶの趣意にて、互に他の長所を取て己の利となす。之を譬へば智力工夫の交易を行ふが如し。

（福沢諭吉『西洋事情』慶応2年）

- 博覧会の旨趣は、天造人造の別なく、宇内の産物を蒐集して、其名称を正し、其用を弁し、人の知見を広むるに在り・・・・・

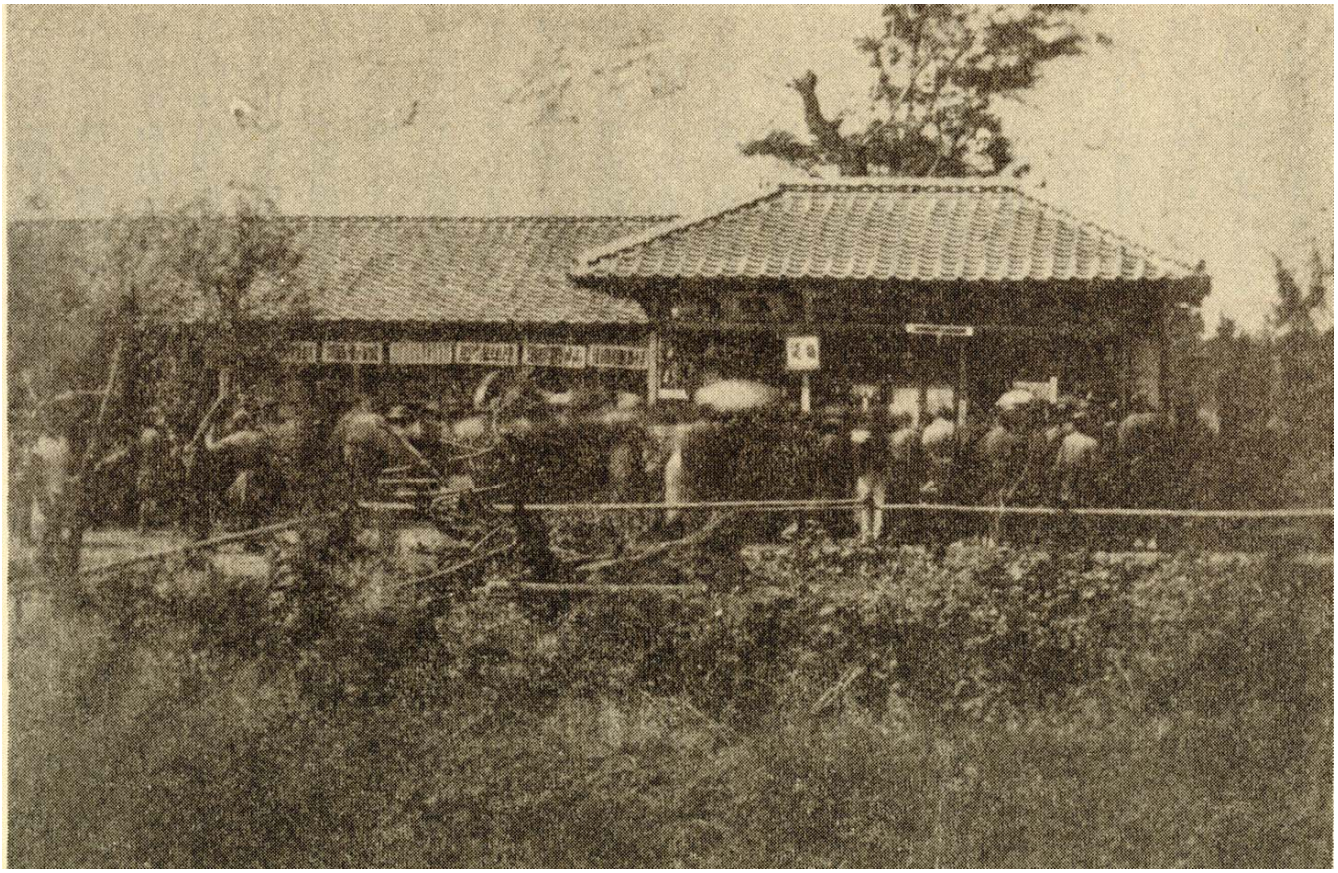
（文部省布達、明治5年１月）

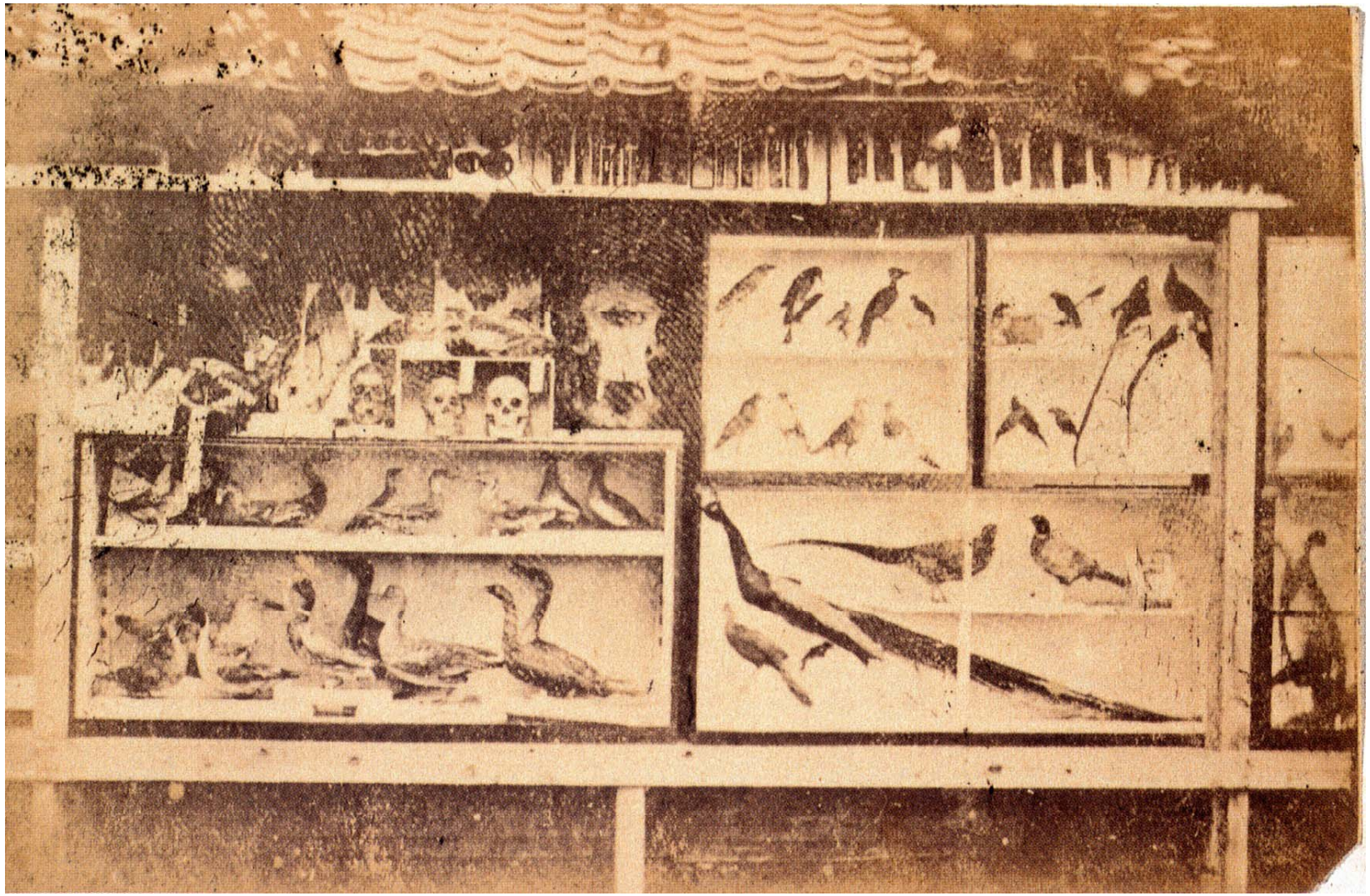
湯島聖堂で博覧会を開いたひとびと

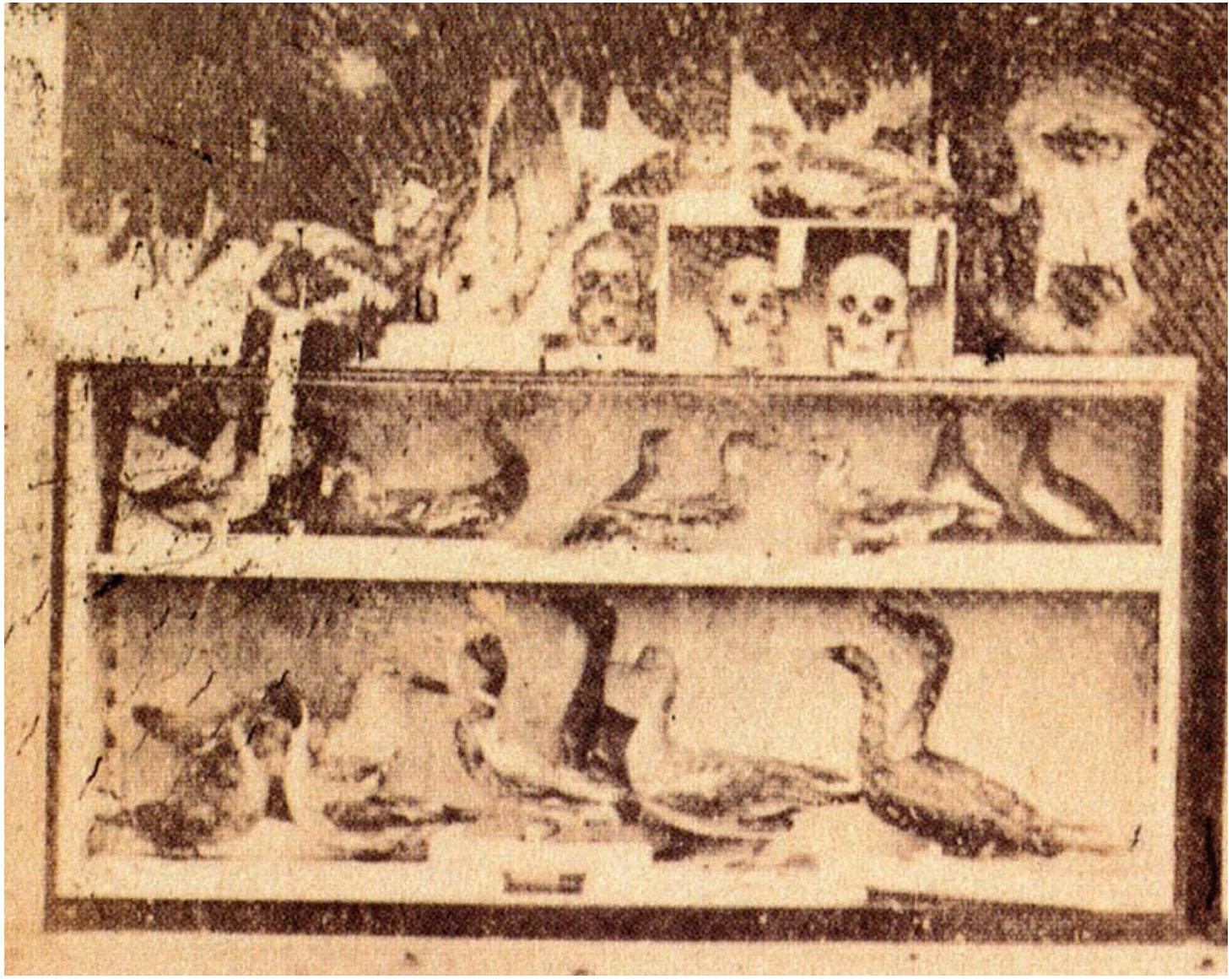
（前列）？、蜷川式胤、町田久成、伊藤圭介、内田正雄、田中芳男、服部雪斎

大学南校主催の物産会

九段（千鳥ヶ淵か）、明治4年（1871）





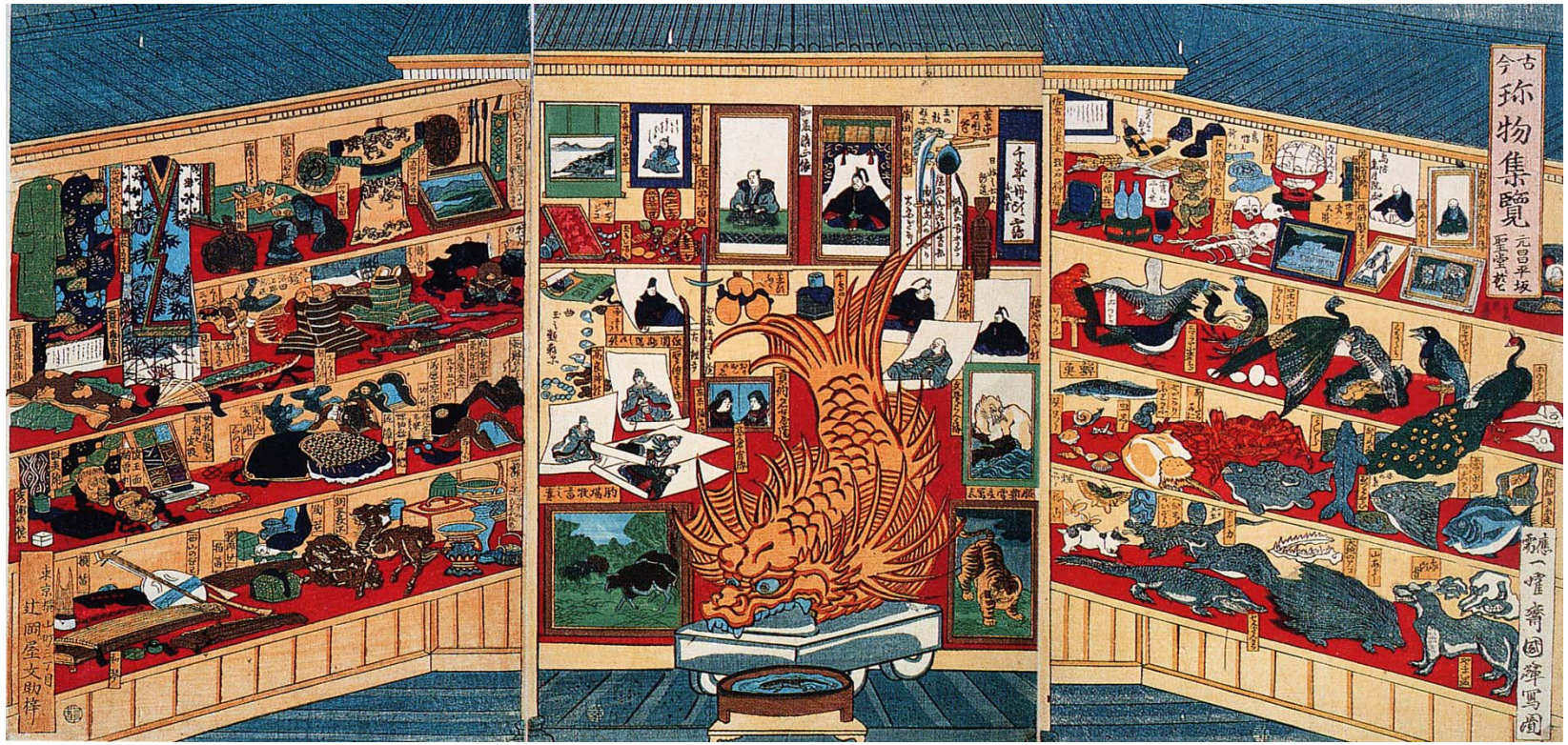


頭骨

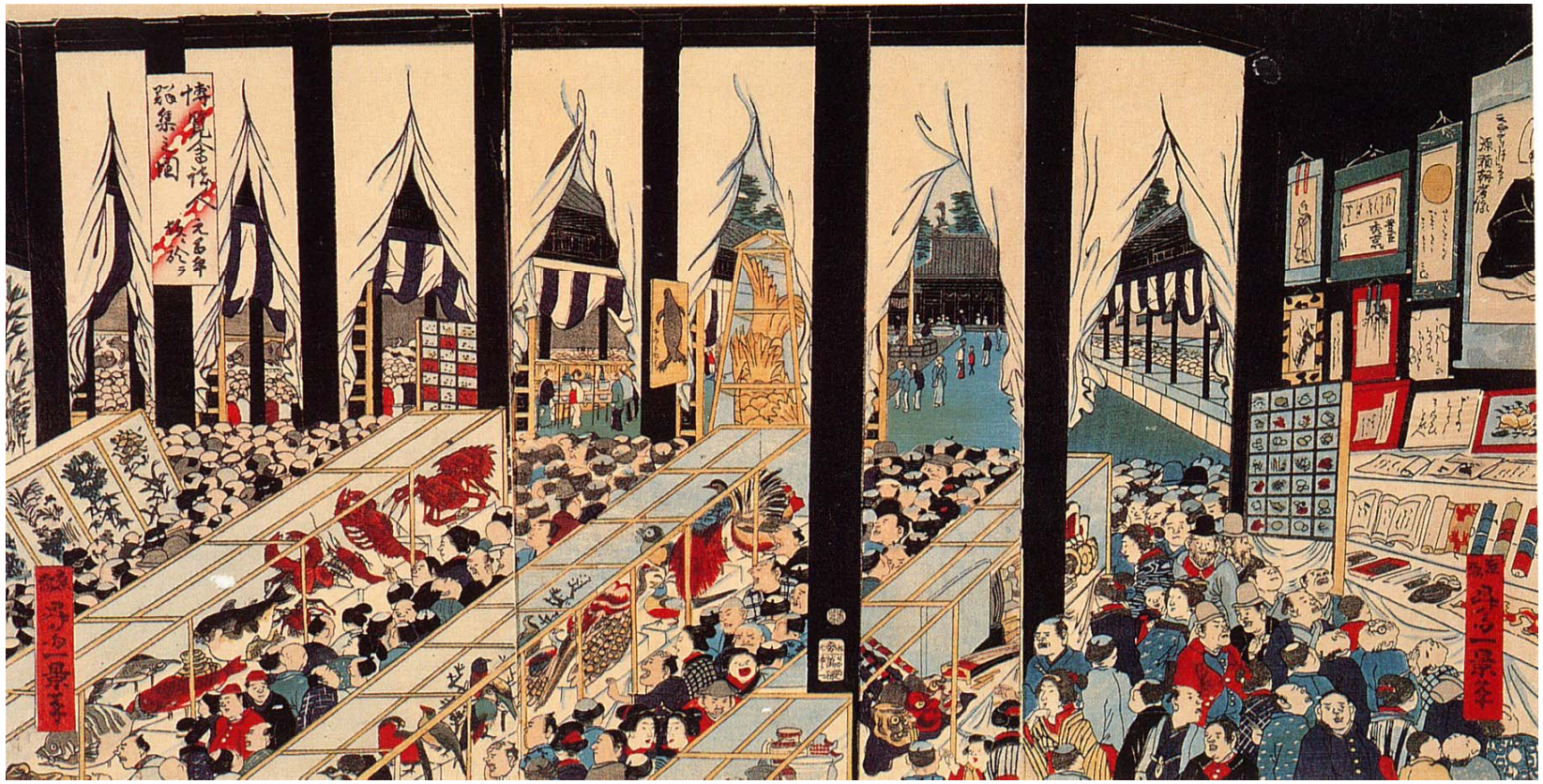
ヒトの頭骨とゾウの頭骨の同居

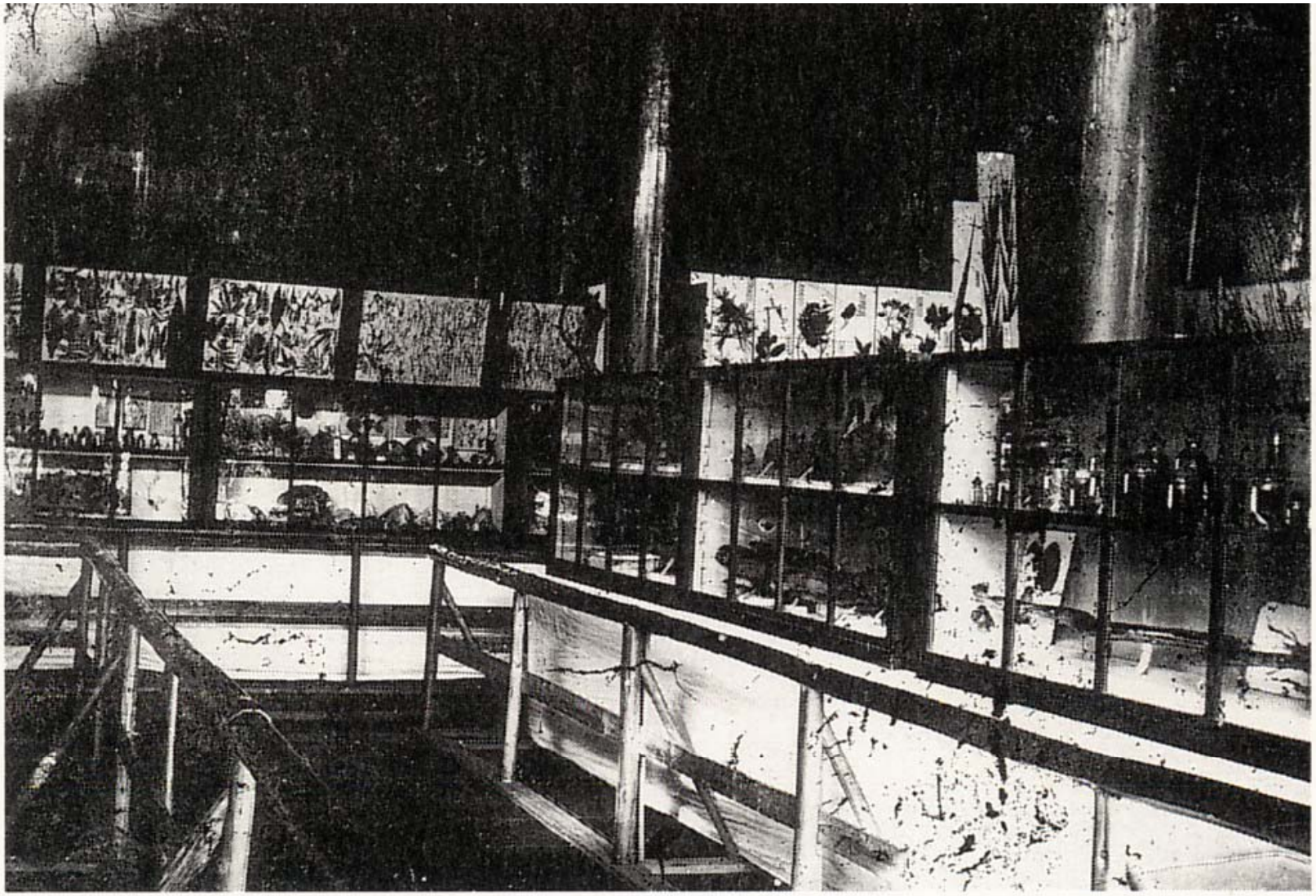
翌年の文部省博覧会においても
ヒトの頭骨とゾウの頭骨が同居

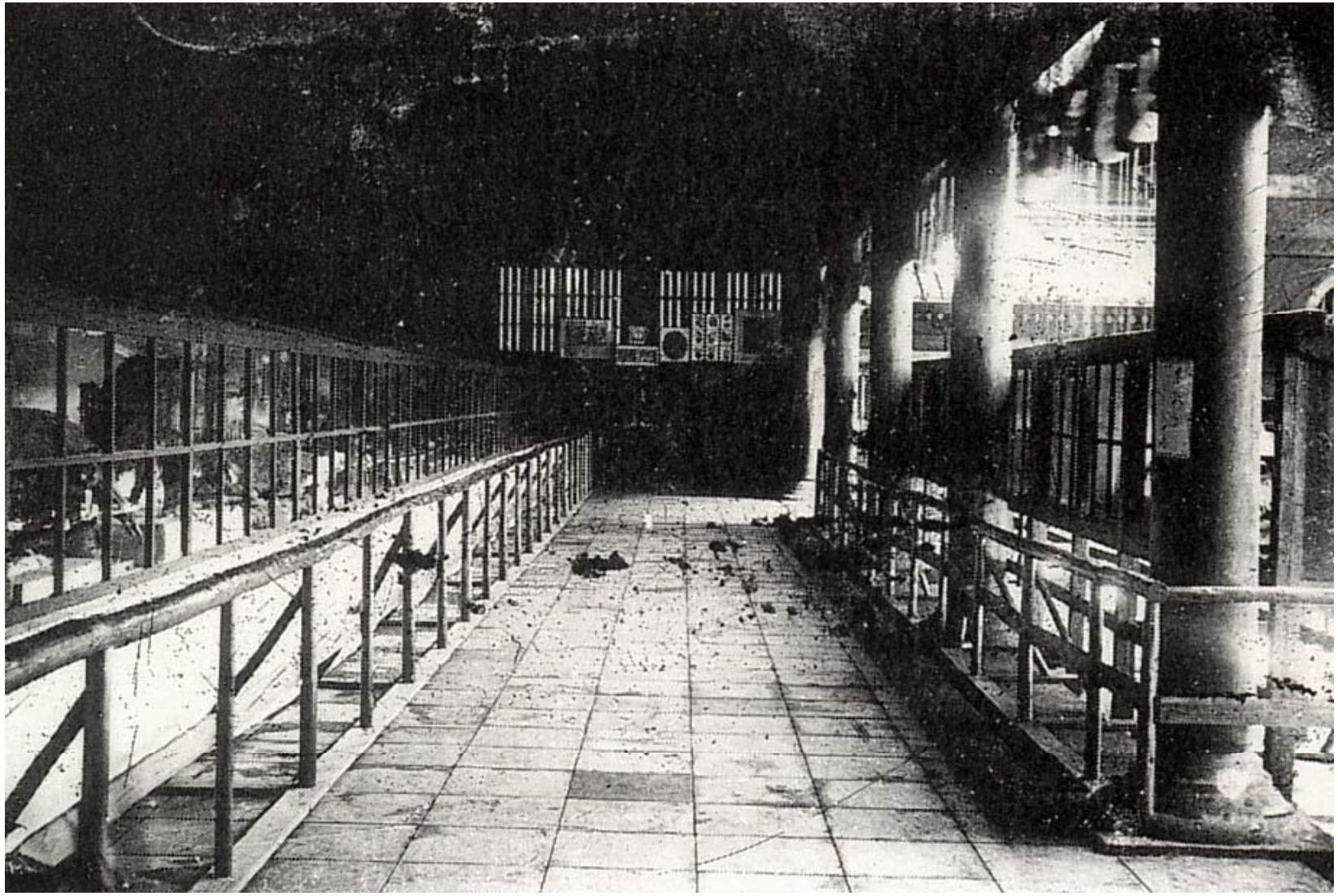
国輝「古今珍物集覧」

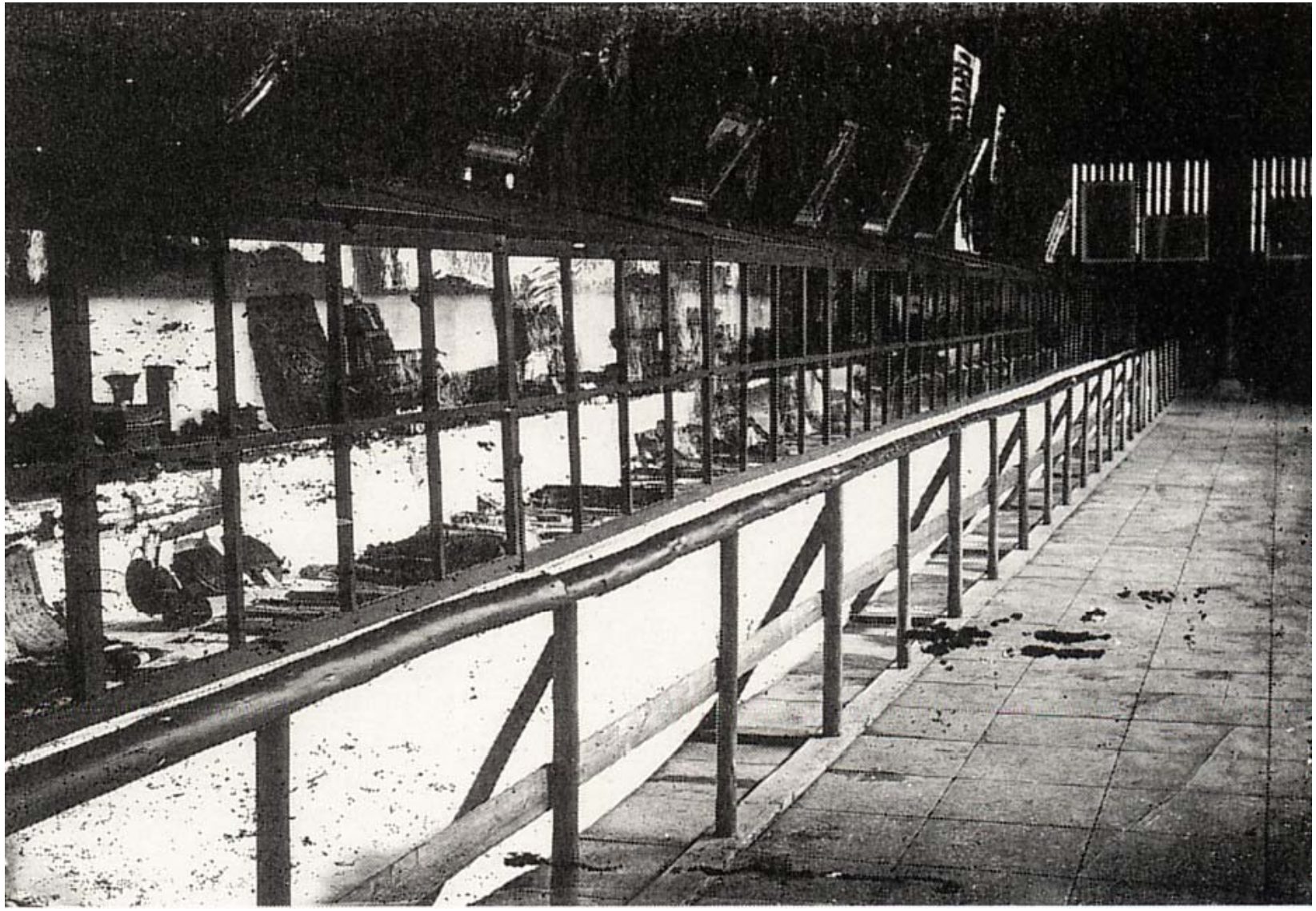


昇斎一景「博覧会諸人群集之図」

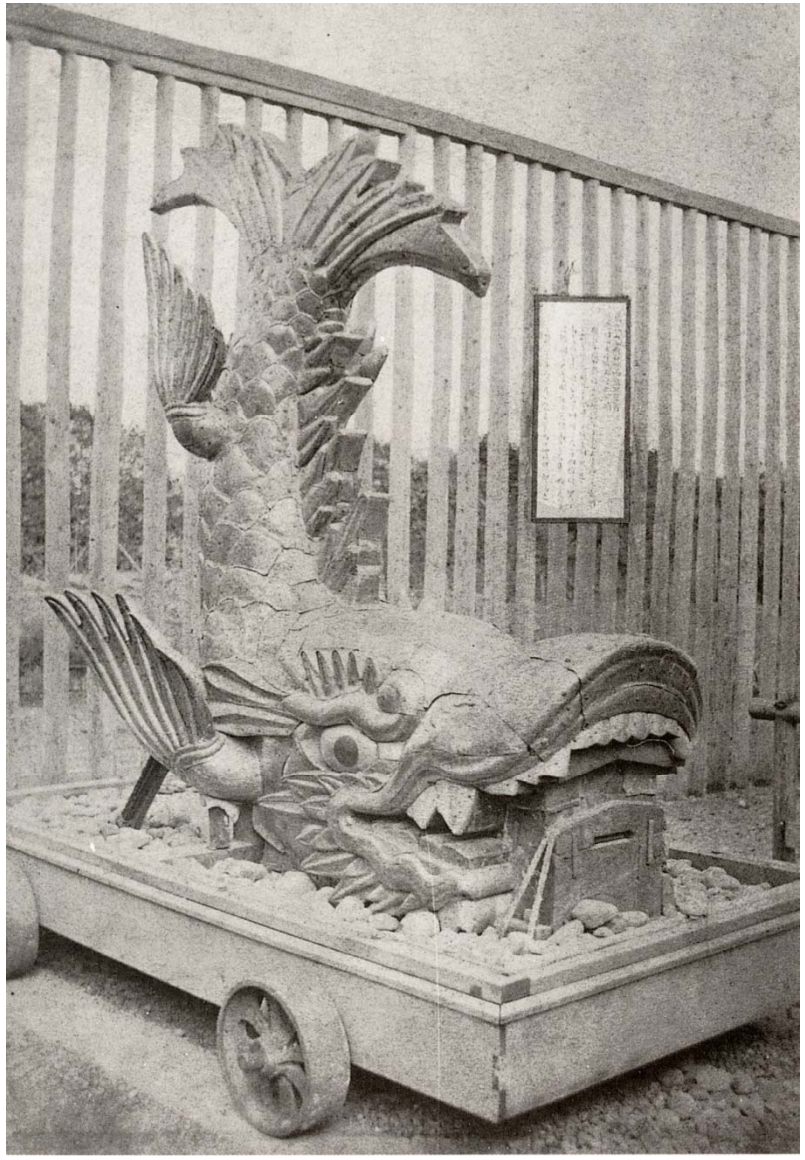


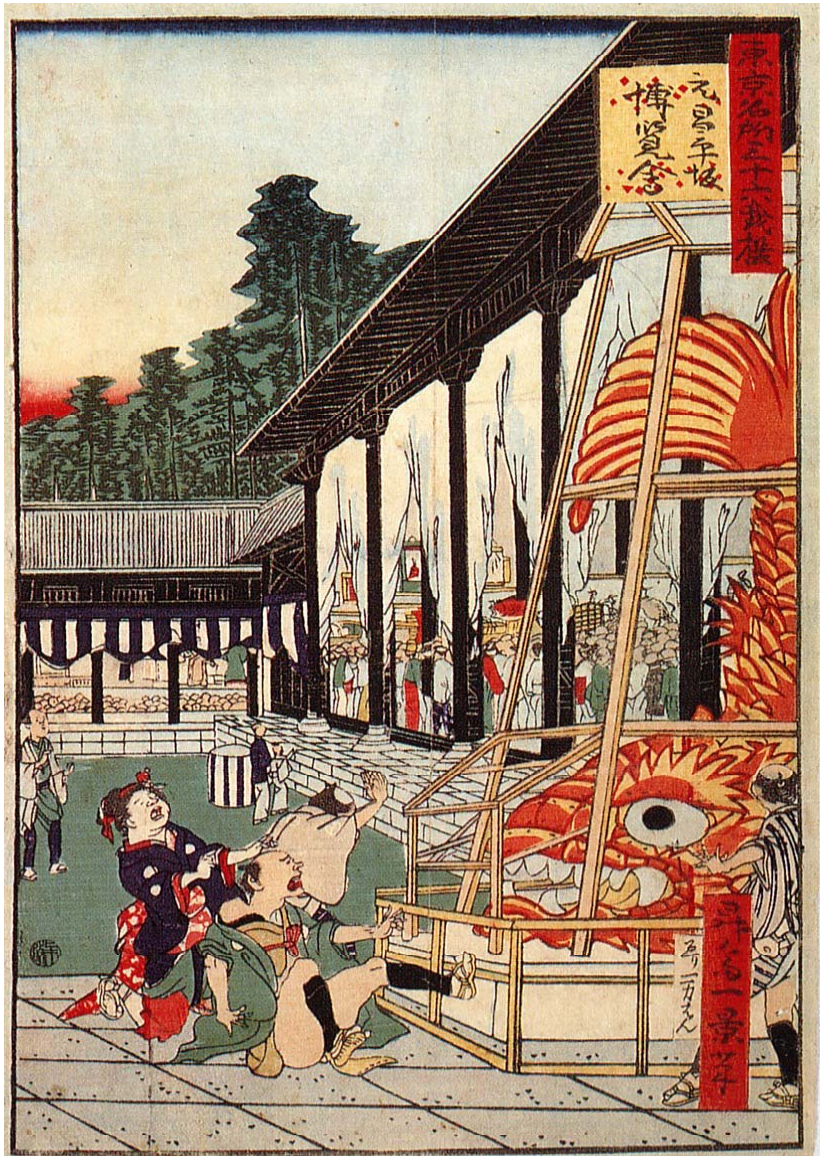


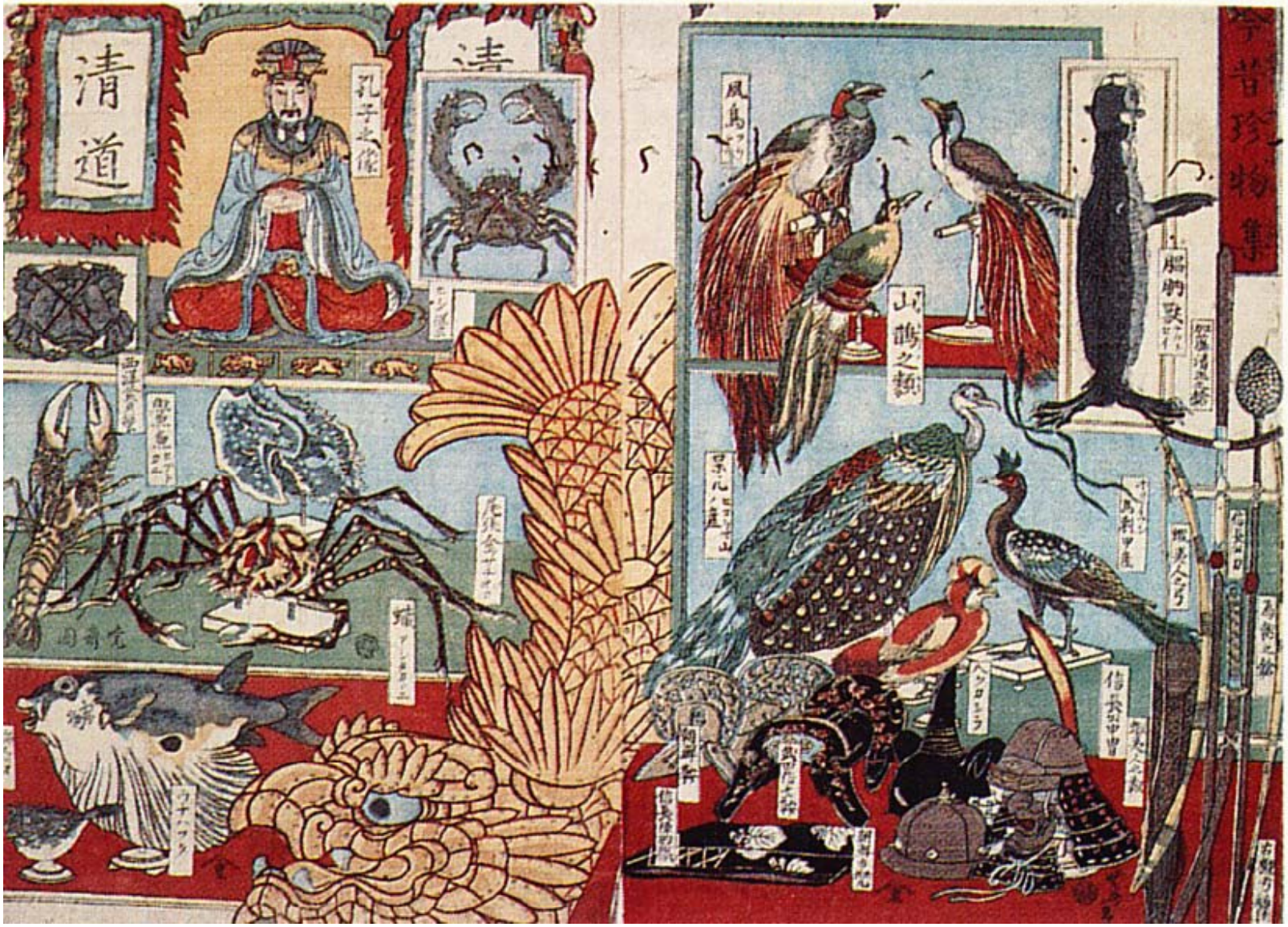




貢納

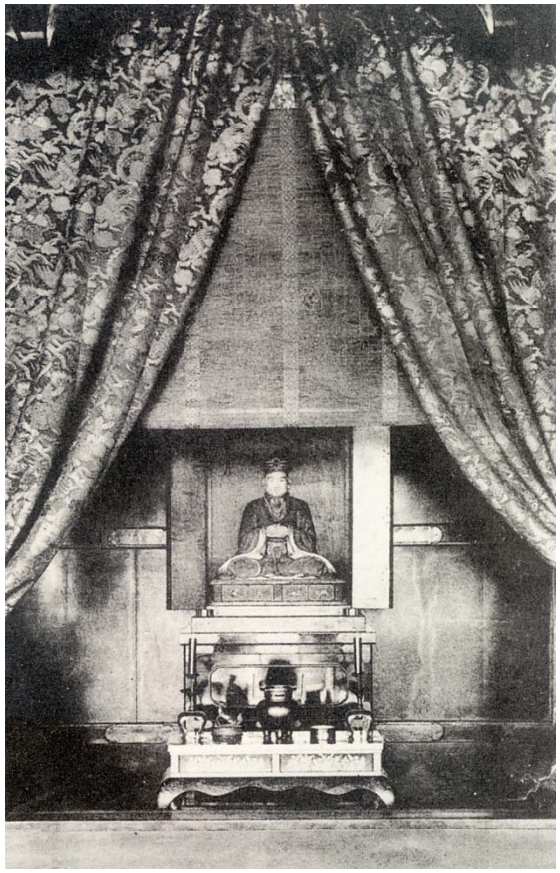



元昌平坂
博覧会


清道
孔子之像
今昔珍物集

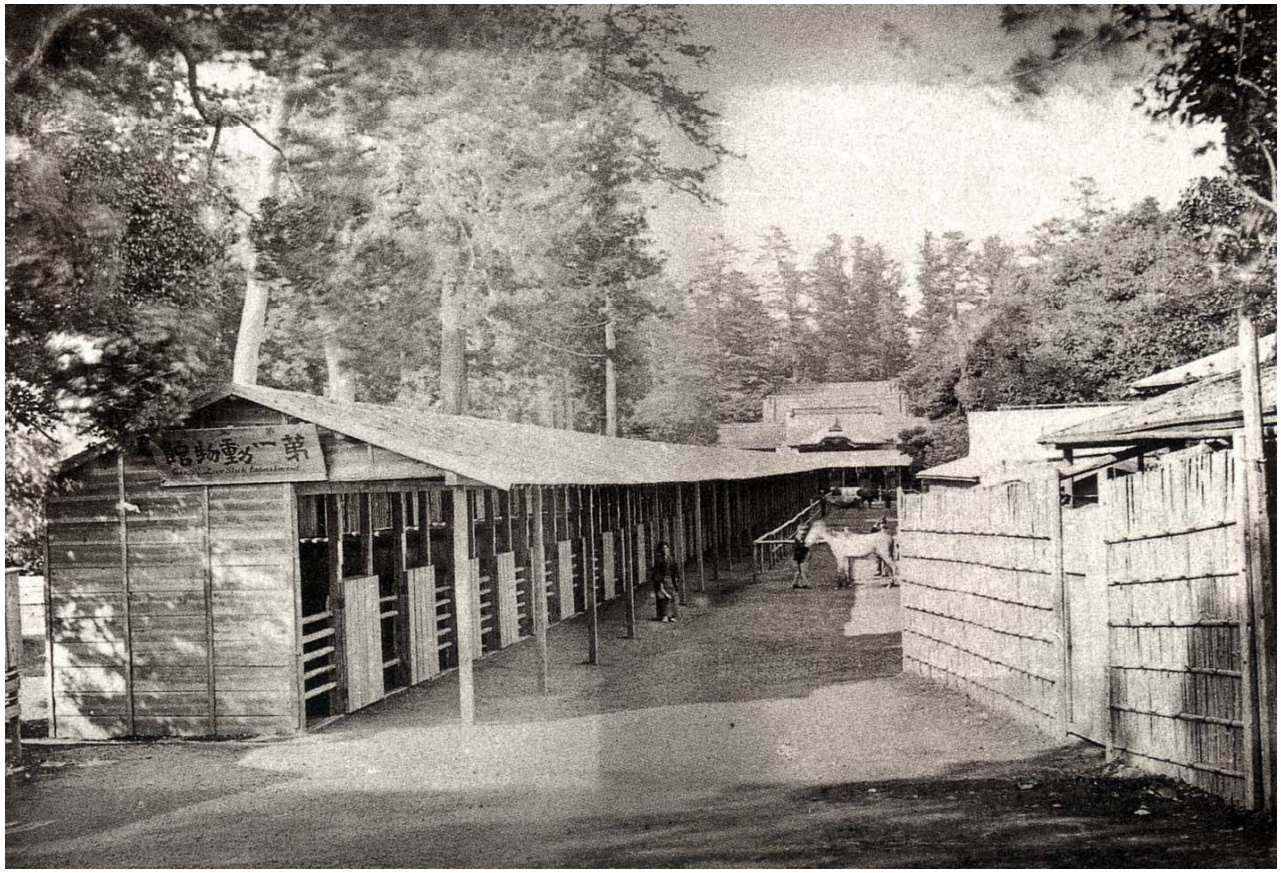
孔子像とカニの標本の同居

聖堂大成殿と孔子像

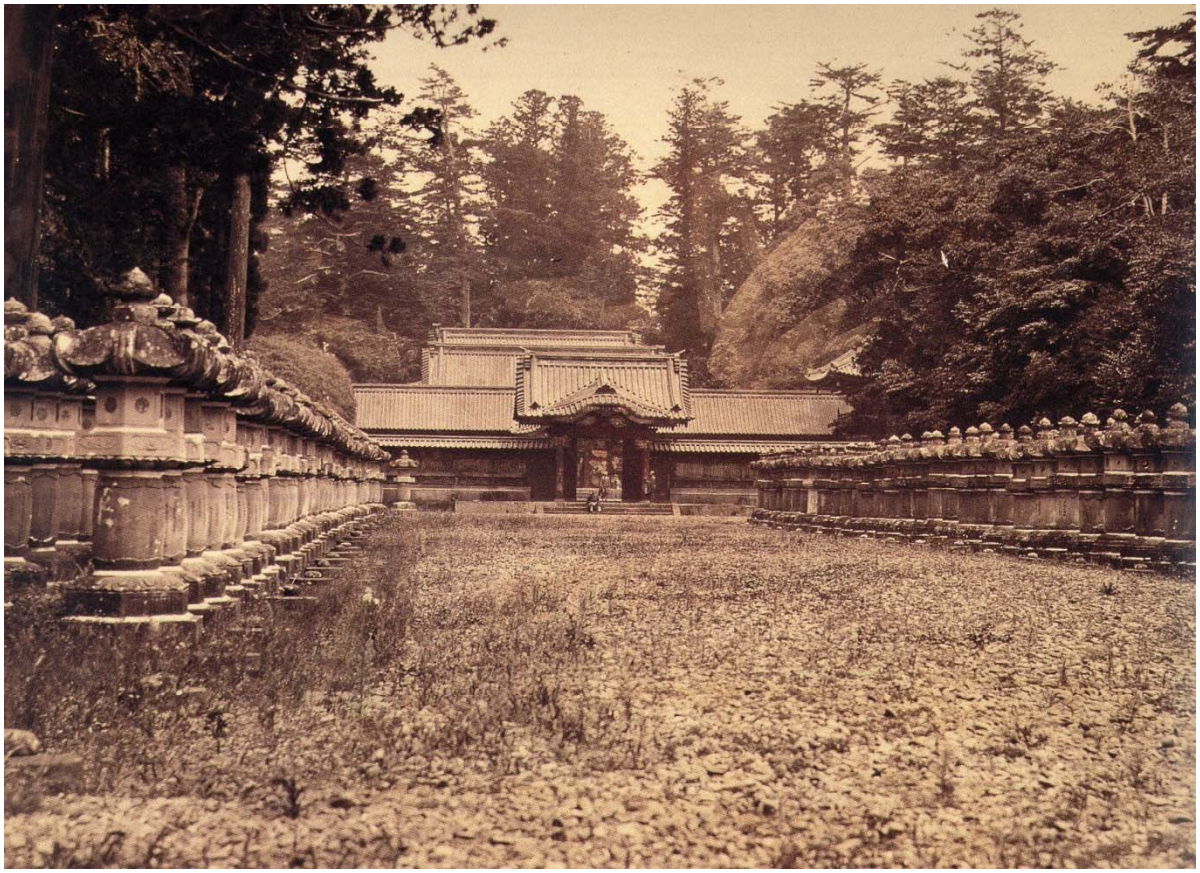


‡ 聖堂創建三百年記念絵はがき　昭和六年（一九三一）「先聖殿安置孔子尊像」、財団法人斯文会発行

第2回内国勧業博覧会の動物館
寛永寺徳川家霊廟の正面に設置



一之御霊屋（厳有院＝四代家綱霊廟）勅額門



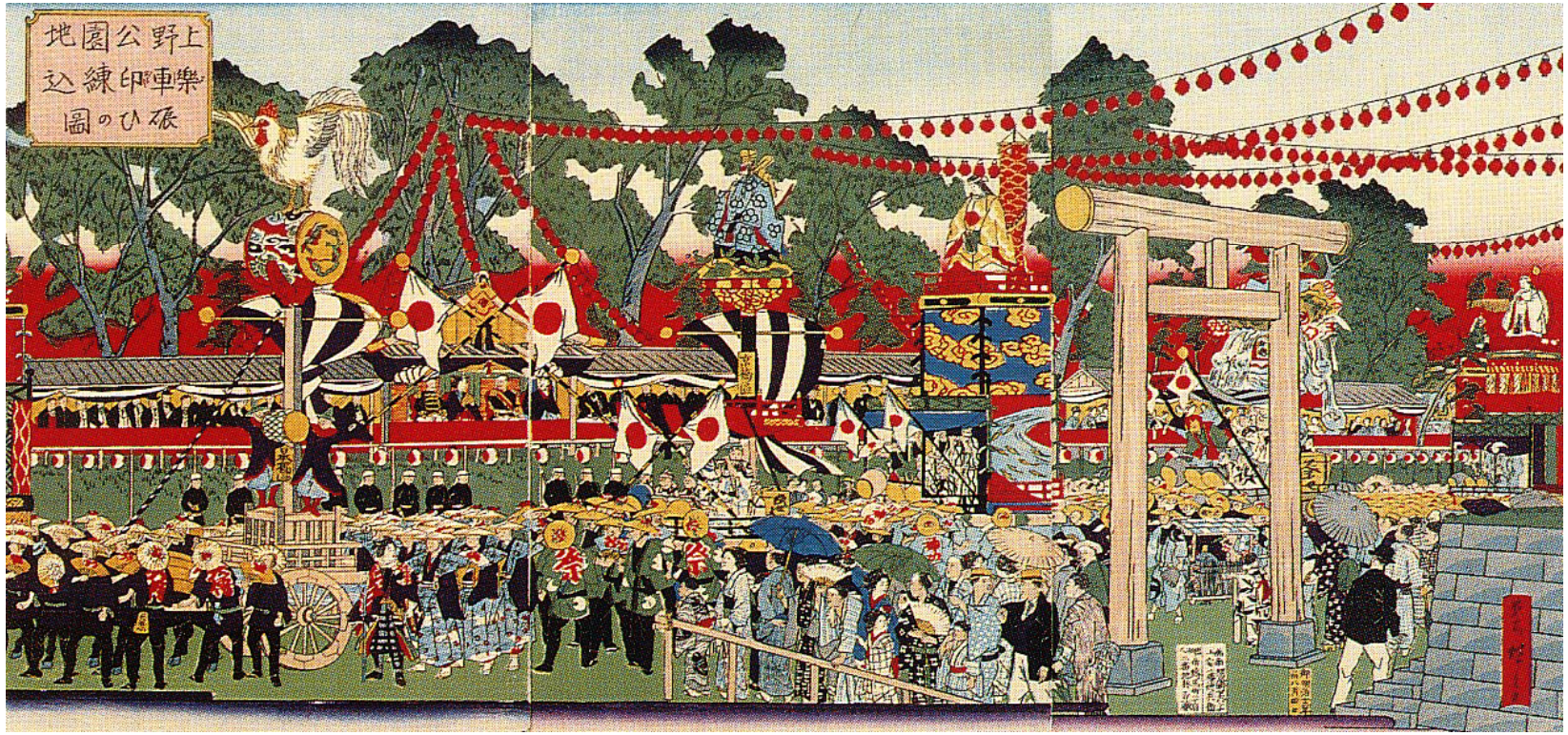
祝祭

芳員
「神田祭出しづくし」
安政6年（1859）

三代広重
「天盃頂戴為御礼諸民欣楽東京府四谷之風景」
明治元年（1868）

「上野公園地楽車印練込賑ひの図」

明治12年（1879）

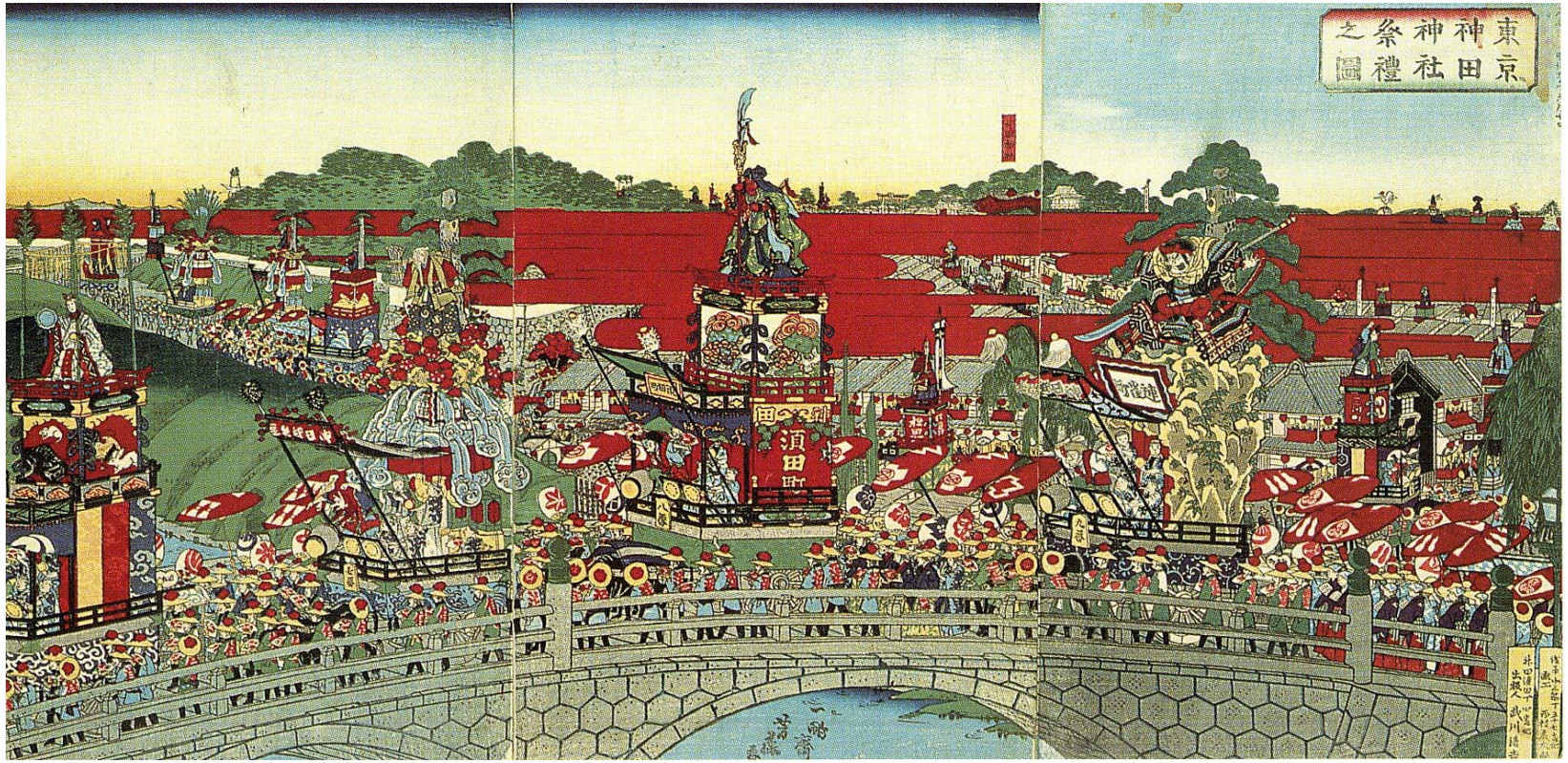


国利

「憲法御発布式祝祭之景況先ニ貳重橋御成行列之図」

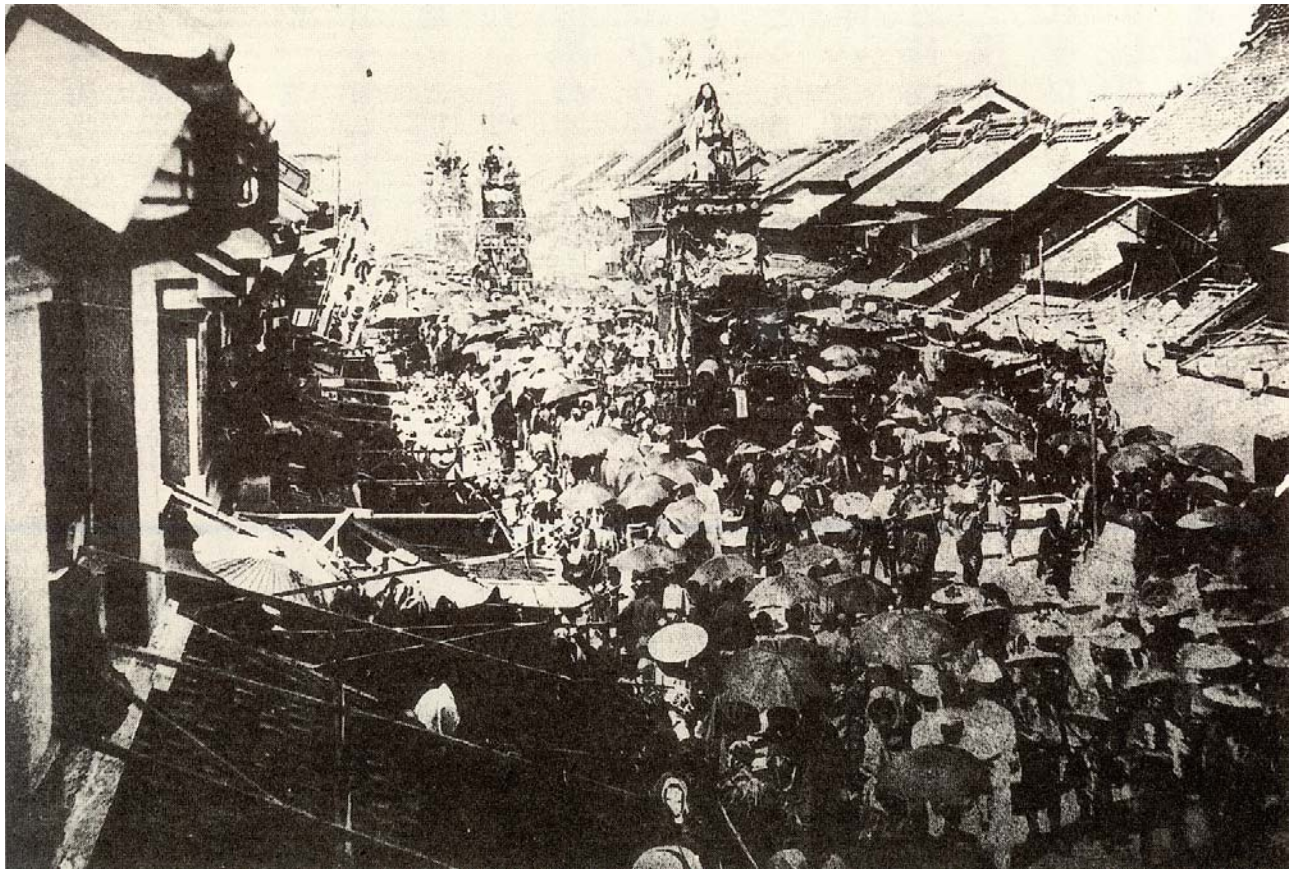
明治22年（1889）

神田祭の衰退
「東京神田神社祭礼之図」
明治9年（1876）

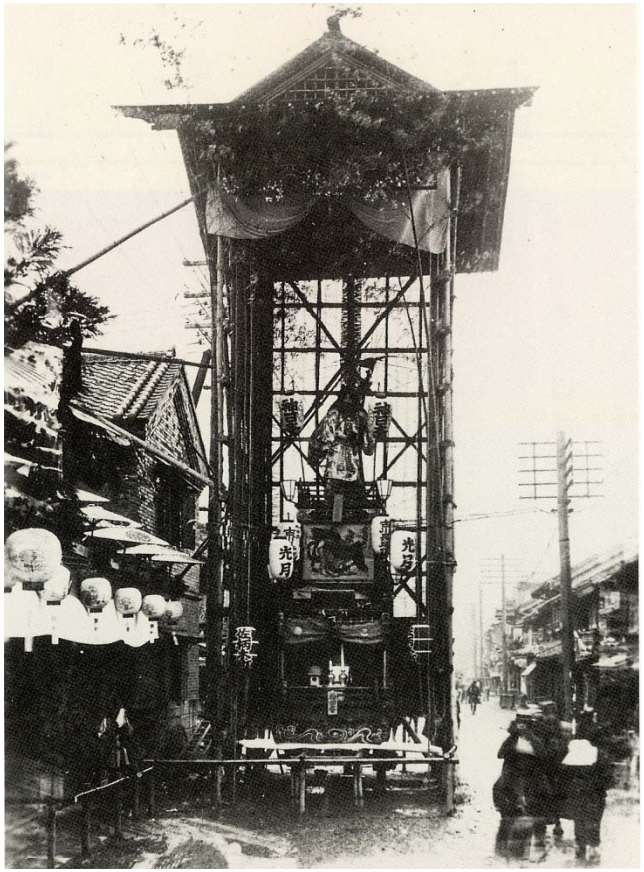


神田祭を写した最古の写真

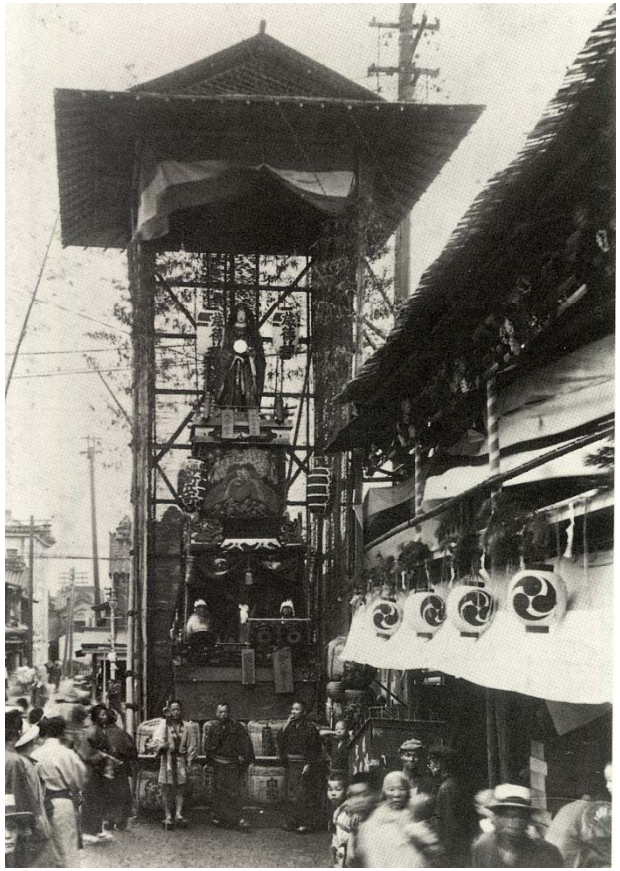
明治17年（1884）か明治22年（1889）



佐柄木町の神武天皇の山車



通新石町の歳徳神の山車



神田祭の衰退／変貌
↓
国家的祝祭の登場

1889.2.11　憲法発布祝賀会
1894.3.9　大婚25年祝典
1895.5.30　日清戦役凱旋祝賀会
1897.1.11　英照皇太后御大葬
1898.4.10　奠都30年祝典
1900.5.10　東宮御慶事
1905.10／12　日露戦役凱旋軍隊歓迎会
1905.10.12　英国艦隊歓迎会
1908.10.18　米国艦隊歓迎会
1910.8.30　日韓合邦祝賀
1911.4.3　日本橋開通式
1912.7.19　新大橋開通式

『日本橋区史』第17章「諸式典」より

高橋源吉『大婚二十五年奉祝景況図』

明治27年（1894）

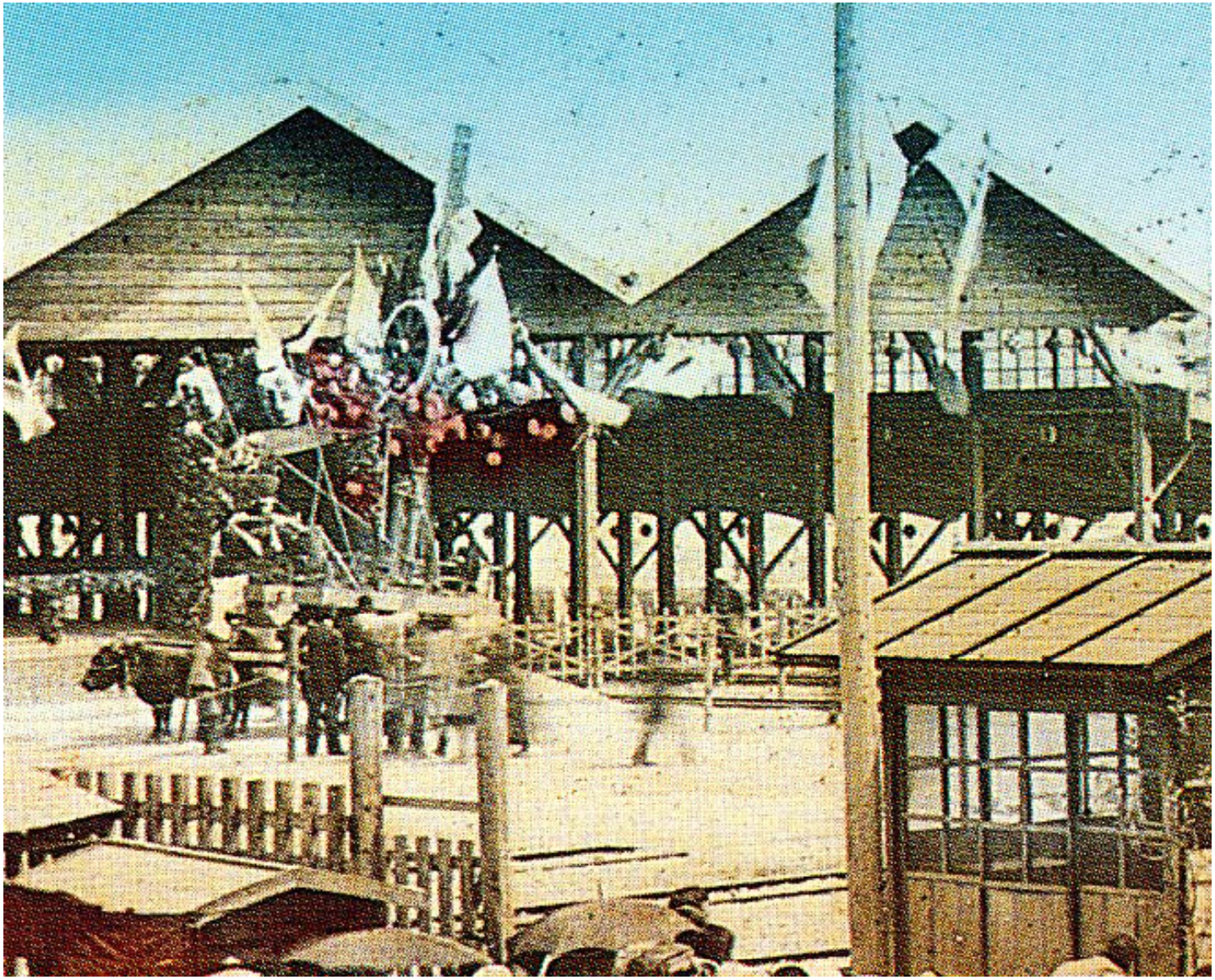
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

高橋源吉『大婚二十五年奉祝景況図』

明治27年（1894）

宮内庁三の丸尚蔵館蔵

操車場を写した横浜写真



日清戦争の凱旋を祝う凱旋門

明治28年（1895）

日比谷凱旋門
明治28年（1895）

日露戦争ではさらに見栄えのする凱旋門が登場

上野凱旋門

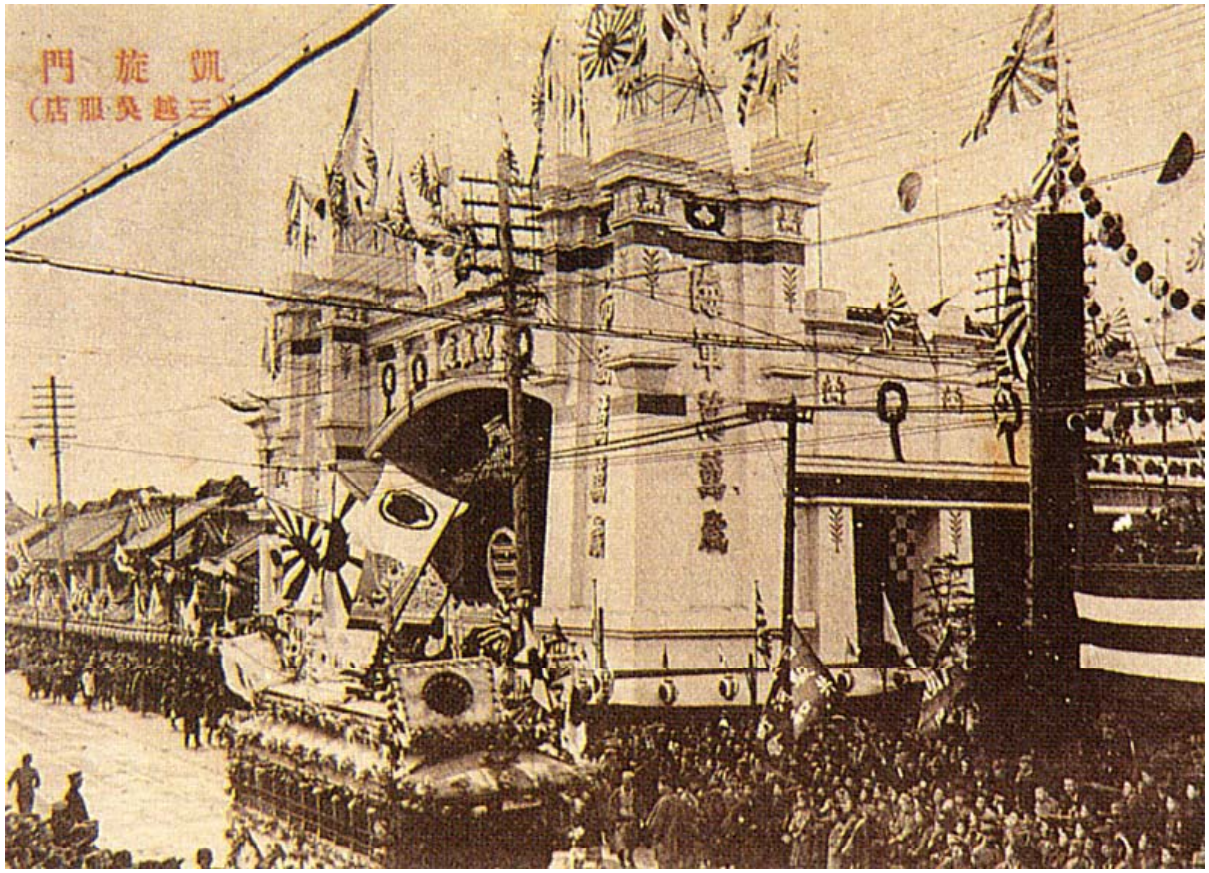
明治38年（1905）

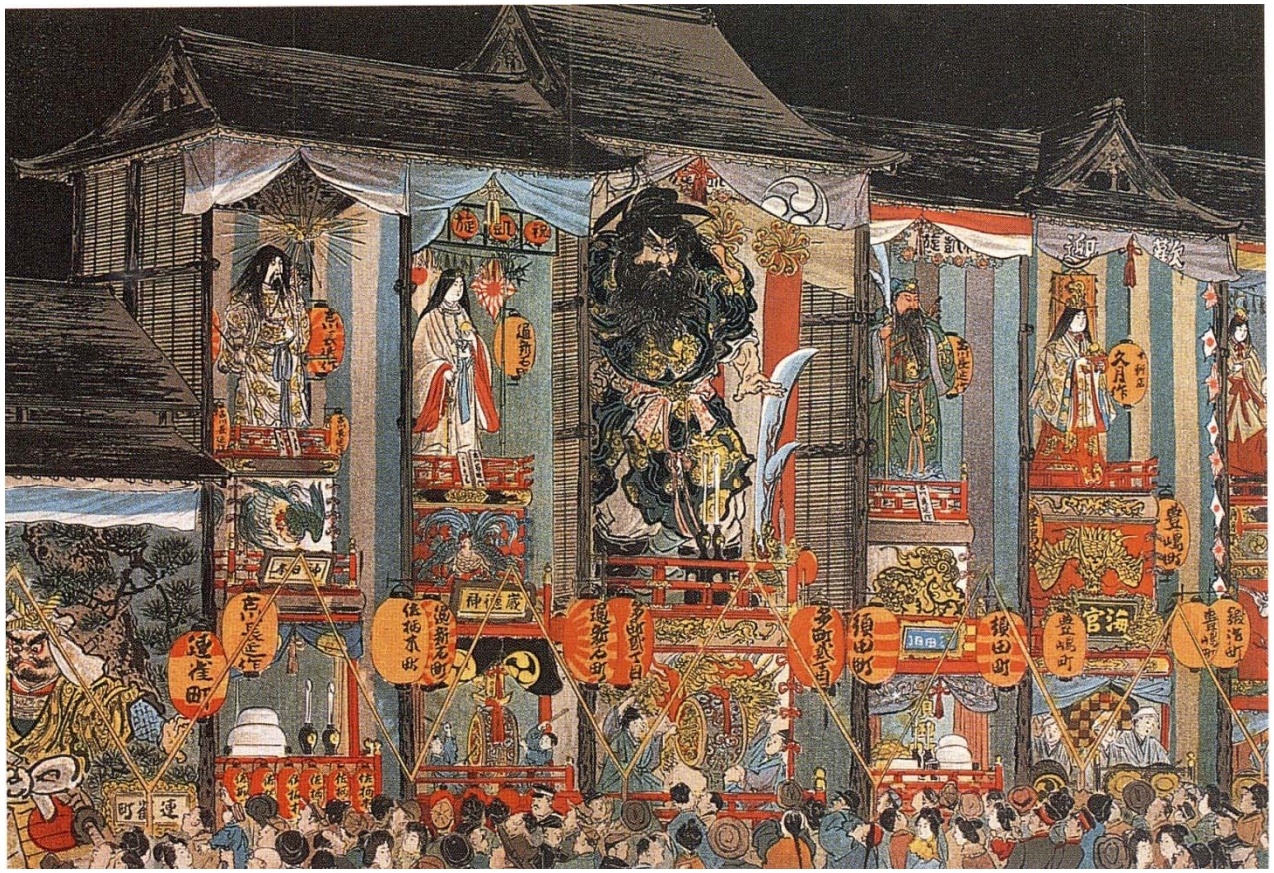
日本橋凱旋門

明治38年（1905）

三越凱旋門

明治38年（1905）



広重「する賀てふ（駿河町）」
（『名所江戸百景』）
安政3年（1856）

日露戦争凱旋軍を迎えて、
万世橋のたもとに、神田祭の山車が勢揃いした。
明治38年（1905）